

JCCA

Japan Civil Engineering Consultants Association

ズーム イン ちゅうぶ
図夢in中部

2021 Vol. 47

JCCA

図夢 in 中部 Vol.47

発行日：2021年8月10日

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 中部支部

東海豪雨から20年

-土岐川・庄内川の治水対策、
これからの取り組み-



一般社団法人

建設コンサルタンツ協会 中部支部

描けます、 あなたの夢を

協会コンセプト

協会会員は、豊かな未来に向けて
今なにをすべきか、
専門的知識を持って、
具現化のアシスタントを
いたします

C O N T E N T S

図夢in中部 Vol.47

目次

1 巻頭言	
副支部長	1
2 特集	
東海豪雨から20年 -土岐川・庄内川の治水対策、これからの取り組み-	2
3 投稿	
入庁して1年半が経って	10
入庁して3年目になって	10
入社して1年が経って	10
『不安と自信』	12
私のチーズを探す旅	12
建設コンサルタントとして	12
4 支部会員会社紹介	14
5 協会活動紹介	16
6 会員名簿一覧	32
7 事務局だより	34
8 編集後記	35

—第5次社会資本整備重点計画への対応—

一般社団法人
建設コンサルタンツ協会 中部支部

副支部長 後藤 隆



わが国の社会資本整備を取り巻く社会情勢は、激甚化・頻発化する自然災害、人口減少と高齢化による地域社会の変化、加速化するインフラの老朽化、デジタル技術の進展による社会や国民生活の変化、並びに持続可能な社会の実現に向けた動きが顕在化しています。また、新型コロナウイルスの感染拡大により住まい方や働き方が大きく変化しています。

このような状況の中で、第5次社会資本整備重点計画(2021～25年度)が今年度よりスタートします。本計画は、社会情勢の変化を踏まえ、国民が「真の豊かさ」を実感できる社会を構築することを中長期的な目的とし、その実現に向けて、以下の六つの重点目標(主な重点施策)を掲げています。①防災・減災が主流となる社会の実現(流域一体となって対処する治水対策「流域治水」の推進、切迫する地震等の災害リスクの低減)。②持続可能なインフラメンテナンス(予防保全に基づくインフラ管理の最適化、集約・再編等によるインフラストックの適正化)。③持続可能で暮らしやすい地域社会の実現(コンパクト・プラス・ネットワークの推進)。④経済の好循環を支える基盤整備(物流ネットワークの構築や物流DXの推進)。⑤インフラ分野のデジタル・トランスフォーメーション(DX)(データプラットフォームの構築やスマートシティ等の推進)。⑥インフラ分野の脱炭素化・インフラ空間の多面的な利活用による生活の質の向上(グリーンインフラ等の推進)。

さて、これらの目標の実現に向けた施策を計画的に推進し、国民が「真の豊かさ」を実感

できる社会を構築するために、社会資本整備の上流側を担う建設コンサルタントには、変化する社会ニーズを的確に捉え、新たなニーズに対応するための技術力の向上とともに、エンドユーザーの視点に立ち、ハード・ソフトを一体として考え、そしてインフラのストック効果を最大化させていく、技術サービスの提供がこれまで以上に求められています。

それらに加えて、ICTやAI等のデジタル技術を活用してインフラの機能を最大限に引き出すとともに、社会課題の解決や新たな価値の創造に取り組んでいく必要があります。また、インフラの品質の最適化や建設生産・管理システム全体の効率化・高度化には、建設プロセスの設計段階において十分な検討を加えるフロントローディング(BIM/CIM3次元モデルを活用)が有効であり、そのための業務を拡大していく必要があります。そして、昨年、2023年までに小規模を除く全ての公共事業におけるBIM/CIMの原則適用が決定されたことから、ソフトウェア・ハードウェアの導入など社内環境の整備や技術者の育成が急がれます。

中部支部では、会員各位の技術力及び品質の向上を目的とした講習会や研修会の一層の充実、関係機関との意見交換会による就業環境や生産性向上などの諸課題の改善、災害発生時等に対する技術支援、並びに社会資本整備の重要性や建設コンサルタントの役割・魅力を市民や学生に理解してもらうためのPR活動などの推進に努めてまいります。支部会員の皆様方の更なるご支援、ご協力をお願いいたします。

東海豪雨から20年

―土岐川・庄内川の治水対策、これからの取り組み―

国土交通省 庄内川河川事務所長 あしや ひでゆき
蘆屋 秀幸



1 はじめに

庄内川河川事務所では中部地方を代表する都市河川である庄内川(岐阜県内は土岐川)と矢田川の一部及び小里川ダムを管理しています。

ひとたび堤防決壊がおれば甚大な被害が想定されることから、庄内川では東海豪雨の教訓を踏まえて東海豪雨と同規模の洪水による被害を防止することを目標に治水対策を進めています。

昨年度東海豪雨20年を機に、東海豪雨の記憶や経験を風化させることなく、近年激化している豪雨災害に備えていただきたいとの思いから、関係機関と共にメッセージ動画の作成やパネル展等の啓発活動を実施しました。

また気候変動による水害リスクの増大に備えるため、河川管理者等の取組だけでなく流域に係る関係者が主体的に取り組む社会を構築する必要性が生じています。

そのため、庄内川流域のあらゆる関係者で構成する「流域治水協議会」を全国に先駆けて設置し、より大きな治水効果を早期に発現させるための対策として「流域治水プロジェクト」をとりまとめました。

2 東海豪雨について

平成12年9月11日、秋雨前線に台風14号からの暖かく湿った空気が流れ込み、積乱雲が次々と発生しました。三重県北中部から愛知県西部にかけて南北に連なる発達した雨雲(線状降水帯)がかかり、特に、17時頃から21時頃にかけて、1時間に80ミリを超える猛烈な雨が愛知県西部を中心に降りました(図1)。名古屋地方気象台において、2日間の総雨量は、年降水量*の約1/3にあたる567mmを記録しました(図2)。

*名古屋地方気象台における平成22年から令和元年までの年降水量の平均値は1,649mm

当事務所が管理する庄内川では、県道枇杷島橋で橋桁に当たるほど水位が上昇し、国道一号一色大橋の下流右岸

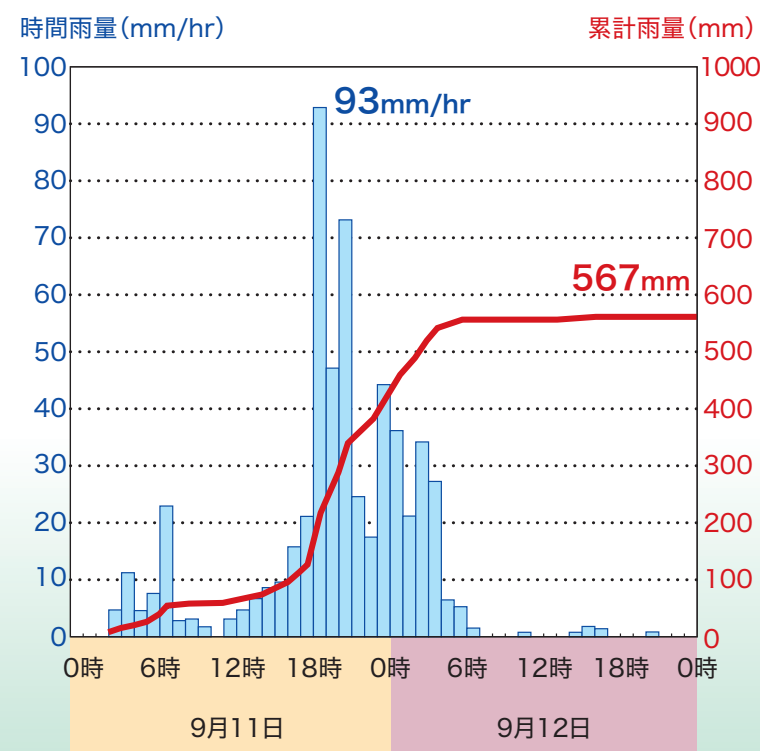


図1 名古屋地方気象台雨量(平成12年)

の堤防で越水が発生するなど、非常に危険な状態が続きました。

庄内川流域では、新川の西区あし原地先の堤防が約100mにわたり決壊したことにより名古屋市や周辺の市町が浸水し、鉄道やバスなどの公共交通機関に大きな影響をおよぼしました。

新川の堤防決壊及び庄内川からの越水等による外水氾濫、内水氾濫により、浸水面積10,476ha、被災家屋34,041棟が被災しました。浸水面積については名古屋市面積の約1/3相当でした。

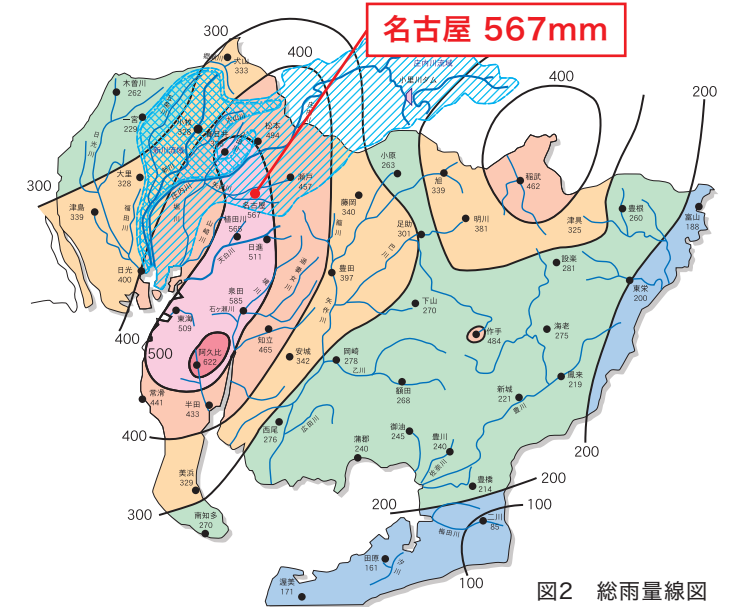


図2 総雨量線図



写真1 JR東海道新幹線橋梁



写真2 国道1号 一色大橋付近



写真3 新川堤防決壊

3 東海豪雨後の治水対策

東海豪雨によって大きな被害をこうむった庄内川流域を早急に復旧し安全な川にするため、「河川激甚災害対策特別緊急事業(激特事業)」が採択されました。これを受けて、中部地方整備局と愛知県は、平成12年度からの5ヶ年で緊急的に整備を行いました(図3)。

激特事業とは、洪水や高潮等により大きな被害が発生した地域において、再度災害防止を図るため、概ね5ヶ年で、緊急に河川改修を行う事業です。

事業期間	平成12年度～16年度
事業区間	庄内川(国) 約16.0km 新川(愛知県) 約21.8km
事業費	庄内川(国) 約400億円 新川(愛知県) 約320億円

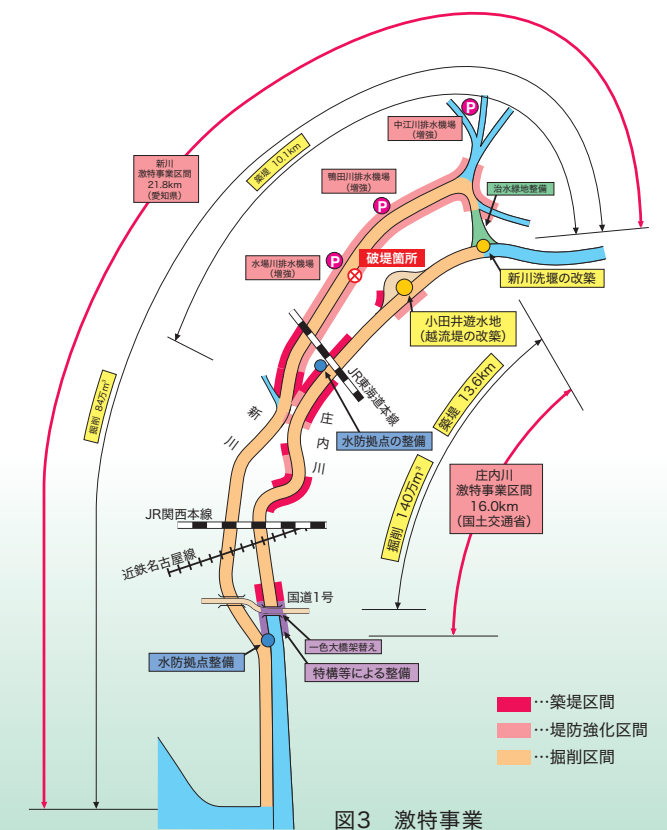


図3 激特事業

【築堤・堤防補強】

・13.6kmに渡り堤防高不足・断面不足の築堤・堤防を強化。



写真4 築堤・堤防補強 13.6km

【河道掘削】

・河川水位を低下させるため、約140万m³の河道掘削。

写真5 河道掘削 約140万m³

【小田井遊水池の改築】

・小田井遊水池の越流堤を約1.3m嵩上げ。

これにより遊水池の洪水調整機能は向上し、東海豪雨同等雨量の場合、ピーク流量は約140m³/s低減され、枇杷島地点における水位低下効果は約16cmとなりました。



写真6 小田井遊水池の改築 越流堤約1.3m嵩上げ

【洗堰の嵩上げ】

・新川洗堰を約1m嵩上げ。

これにより東海豪雨同等雨量の場合の庄内川から新川への最大越流量は270m³/sから70m³/sへ低減されました。

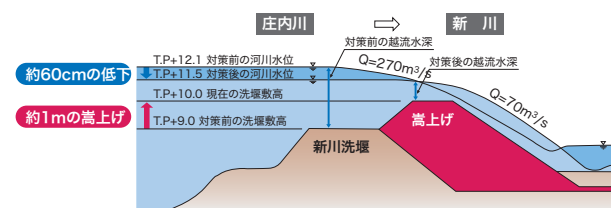


写真7 洗堰の嵩上げ 約1m

激特事業による効果として、東海豪雨と同様の降雨に対して、床上・軒下未満の浸水家屋は、約11,900戸（うち軒下以上浸水：約1,400戸）から約1,100戸（うち軒下以上浸水：0戸）と約9割減少し、軒下以上の浸水は解消される見込みとなりました（図4）。

ひとたび浸水した場合、復旧には多くの時間・労力・費用が必要となります。東海豪雨の被害額は約6,700億円との試算があります。今回の激特事業は、国・愛知県合計で約720億円の事業費でありましたが、東海豪雨と同様な降雨の場合での事業実施後の想定被害額は約1,200億円と想定されます。つまり720億円の事前投資で、約5,500億円の被害が軽減できたとも考えられます（図5）。被害を軽減するためにも、予防対策（事前対策）が重要となります。

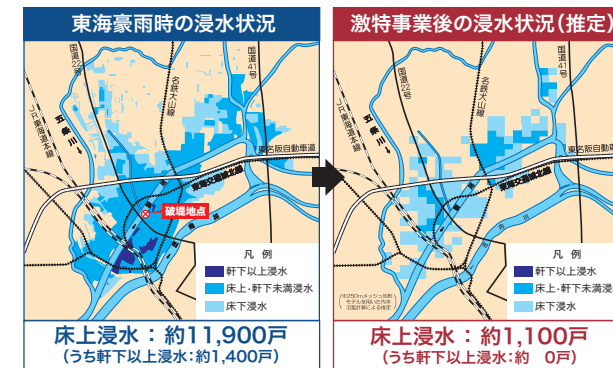


図4 激特事業による浸水状況効果

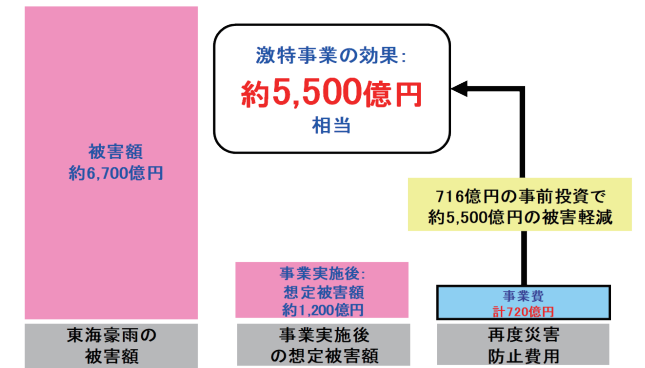


図5 激特事業の効果

4 東海豪雨20年での広報・啓発活動

当時の教訓を風化させることなく、今後にも繋げていくため、東海豪雨20年実行委員会を組織し、当時の教訓を思い起こして頂くとともに、近年の気候変動に伴う豪雨災害やこれからの水防災について理解を深めていただくための各種広報・啓発活動を行いました。

○パネル展

東海豪雨から20年
～あなたの命を守るパネル展～

令和2年9月1日～10月15日

「自らの命は、自らで守る」という意識を持つていくため、庄内川流域関係自治体のロビー等でパネル展を実施しました。また、一部の会場では、令和元年東日本台風が庄内川流域を直撃した場合のバーチャル映像を体験していただきました。

＜参加者の感想＞

- ・風化させないためにも（パネル展は）重要だと思う。
- ・様々な防災情報があることが分かったので今後活用したいと思う。
- ・あっという間に水かさが増えるので早めの避難が必要だと思った。
- ・リアルな浸水体験で恐怖を感じた。
- ・避難に対する意識が変わった。



写真8 あなたの命を守るパネル展

○YouTube配信

東海豪雨から20年
～あなたの命を守るメッセージ～

実行委員会構成メンバーの代表等からのメッセージ動画を作成し、庄内川河川事務所ウェブサイトとYouTubeで配信しました。

庄内川河川事務所
YouTubeチャンネル



写真9 河川管理者からご挨拶



写真10 庄内川流域市町首長からのメッセージ

5 近年の水災害

庄内川流域では、東海豪雨以降、堤防決壊を伴う大洪水は発生していませんが、近年の気候変動により、日本各地で東海豪雨を上回る規模の洪水が発生しています。

令和元年東日本台風(台風19号)は、大型で強い勢力のまま伊豆半島に上陸し、静岡県や関東甲信地方、東北地方を中心に広い範囲で記録的な大雨となりました。令和元年10月10日から13日までの総雨量は、神奈川県箱根町で約1,000mm。長野県長野市の千曲川等、全国142箇所 で堤防が決壊するなど、甚大な被害が発生しました。

この令和元年東日本台風は、2日前の予想では、庄内川流域近くを通ると予想されていましたが、直撃すること無く通過しました。

もし直撃していたらどうなっていたのでしょうか。台風19号の雨域を庄内川流域に重ねてシミュレーションを実施した結果、24時間雨量を比較した場合、東海豪雨が353mm(枇杷島地点上流域)であったのに対し、令和元年東日本台風は511mmであり、約1.4倍の雨量でした。庄内川流域での想定最大規模(L2)の雨量は578mmであり、令和元年東日本台風の雨量とほぼ同じです(図6)。

このことから令和元年東日本台風が庄内川流域を直撃していた場合、東海豪雨を上回る大雨となっていた可能性があります。

仮に想定最大規模の降雨となり、堤防が決壊した場合、決壊箇所から平野部に広がるように氾濫し、鉄道(JR駅)等が浸水する等、ライフラインに大きな影響が生じます(図7)。また、想定ではありますが名古屋駅では約3m、勝川駅では約4m浸水し、駅へのアクセスや駅からの移動が困難になる可能性があります。さらに1階部分が浸水する公共施設も存在します。

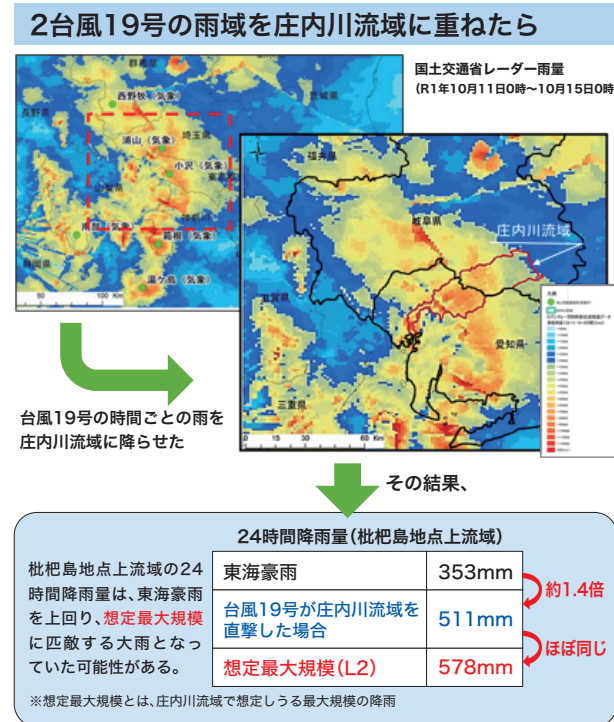
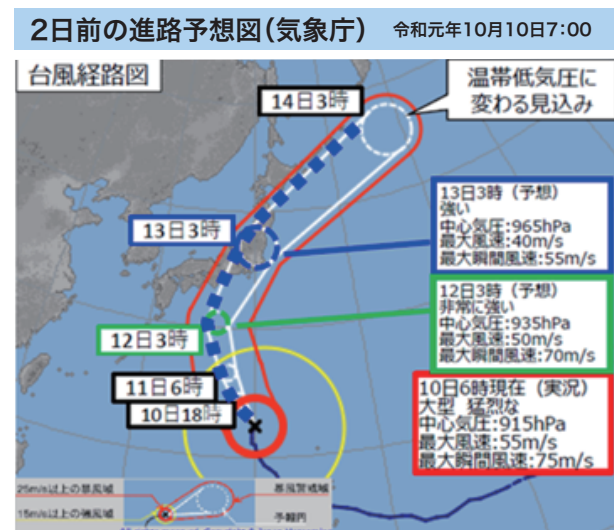


図6 台風19号雨域庄内川流域重ね合わせ



図7 被害諸量(堤防決壊)

6 流域治水への転換

1. 流域治水とは

前記のような激甚化する水害リスクの増大に備えるためには、これまでの河川管理者等の取組に加えて、流域に関わるあらゆる関係者(国・県・市町・企業・住民等)が主体的に治水に取り組む社会の構築が求められています。

庄内川流域は日本経済を支える産業集積地域である反面、日本一のゼロメートル地帯を有する、水害リスクが高い地域です。先に述べました東海豪雨を風化させることなく当時の教訓を継承し地域とともに防災対策を進めていく必要があります。

2. 庄内川流域治水協議会の概要

庄内川流域では、自治体からの発意によって流域治水を推進するため、令和2年7月6日に庄内川流域の関係自治体が一堂に会し、全国に先駆けて「庄内川流域治水協議会」を設置・開催しました。流域治水対策の検討にあたっては、名古屋市、多治見市がリーディング的に実施していくことや、素案の提示、検討方針の確認が行われました。令和2年10月13日の第3回協議会では、名古屋市及び多治見市より流域治水対策の紹介があり、全体像の共有・検討が行われました。多治見市長から「中流域の役割として、下流に位置する市町のために雨水流出抑制を行っていく」旨の発言がある等、流域全体が一体となって治水を行う体制が構築されています。そして、計5回の協議会を経て、令和3年3月25日の第5回協議会にて、流域市町(18市5町)・流域関係自治体・河川管理者・気象台・道路事業者・下水道事業者・電力事業者等による協議会構成員・オブザーバー等の41機関で「庄内川水系流域治水プロジェクト」をとりまとめました(写真11)。各構成員が流域治水対策の施策ペーパーを作成し取組を明確化したことで、庄内川流域のあらゆる関係者は一体となって流域治水対策を進めていくこととしています。



写真11 第5回庄内川流域治水協議会
(写真撮影時のみマスクなし)

3. 庄内川水系流域治水プロジェクトの内容

本プロジェクトは、庄内川流域の特徴を踏まえ、狭窄部(橋梁改築)等の対策に加え、貯留管等の整備、公園等を活用した高台の整備、地下空間・地区タイムラインの作成・周知、道路事業者との連携等をあらゆる関係者と一丸となって実施します(図9,10)。

短期では、氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策として、狭窄部下流で水位低下を目的とした河道掘削や雨水排水網の整備等により、清須市や名古屋市下流部で浸水深・浸水面積の減少を図ります。被害対象を減少させるための対策としては、浸水防止塀設置の支援や下流のみならず中流域でも立地適正化計画への防災指針の位置づけ等を推進します。被害の軽減、早期普及・復興のための対策としては、庄内川流域が日本一のゼロメートル地帯を有するため、公園等を活用した高台の整備(図8)や水害リスク空白域の解消に向けた中小河川における浸水想定区域の指定を推進します。



図8 公園等を活用した高台の整備(名古屋市)

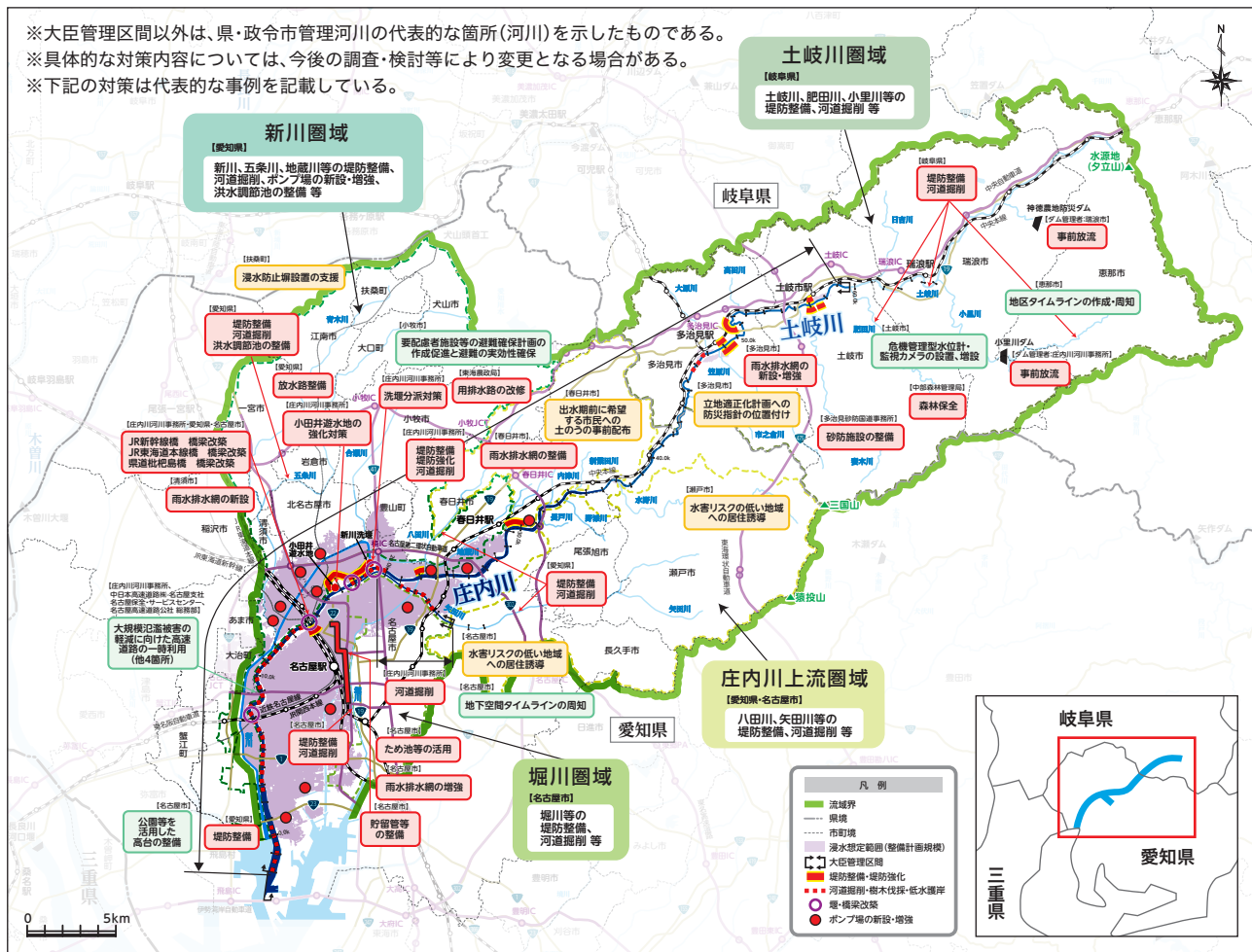


図9 庄内川水系流域治水プロジェクト【位置図】

区分	主な対策内容	実施主体	工程※3		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削	庄内川河川事務所 愛知県・岐阜県・市町			狭窄部上流の多治見市街地等をまもる河道掘削
	橋梁改築(狭窄部対策)	庄内川河川事務所 愛知県・名古屋市 東海旅客鉄道株式会社※2		県道枇杷島橋完成	JR東海道本線、新幹線橋梁完成
	洗堰分派対策	庄内川河川事務所			洗堰分派対策完成
	用排水網の改修	東海農政局・愛知県		名古屋中央雨水調整池 広川ポンプ場の完成 (名古屋市)	用排水路の改修
	雨水排水網、ポンプ場、貯留管等	愛知県・市町	事前放流等の実施		
	既存ダム2ダムにおける事前放流等の実施・体制構築	庄内川河川事務所 土岐川防災ダム一部事務組合(瑞浪市)			
	ため池等の活用	市町		ため池の機能強化 (名古屋市)	急傾斜施設の整備 (土岐市)
被害対象を減少させるための対策	砂防施設の整備、治山施設の整備、森林保全等	多治見砂防国道事務所 中部森林管理局・岐阜県・愛知県・市町			
	立地適正化計画への防災指針の位置づけ	市町	立地適正化計画への 防災指針の位置づけ (多治見市)		居住誘導の推進
	水害リスクの低い地域への居住誘導	市町			
	浸水防止堀設置の支援	市町	浸水防止堀設置の支援 (扶桑町)	土のうの事前配布 (春日井市)	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	出水期前に希望する市民への土のうの事前配布	市町			
	公園等を活用した高台の整備	市町		高台の整備 (名古屋市)	
	大規模氾濫被害の軽減に向けた高速道路の一時的利用	庄内川河川事務所 中日本高速道路(株)名古屋支社名古屋 保安・サービスセンター※1 名古屋高速道路公社※1		関係機関の連携強化 (多治見市)	地下空間タイムラインの 周知・フォローアップ (名古屋市)
	地下空間・地区タイムラインの作成・周知	庄内川河川事務所 愛知県・岐阜県・市町			
	要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保	市町	避難確保計画の作成		
	水害リスク空白域の解消	岐阜県・愛知県・市町		中小河川における 浸水想定区域の指定	危機管理型水位計・ 監視カメラの設置 (土岐市)
危機管理型水位計・監視カメラの設置、増設	危機管理型水位計・監視カメラの設置、増設	市町			

※1:実施主体ではないが、オブザーバーとして連携する機関 ※2:実施主体ではないが、連携する機関 ※3:各対策による旗揚げでは、代表的な市町名を記載

図10 庄内川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

中期では、短期に引き続き、狭窄部対策[橋梁改築(JR新幹線橋等3橋)]等(写真12)により、名古屋市下流部での浸水被害の解消を図るとともに、防災指針の作成等を踏まえ、構成員が一体となり水害リスクの低い地域への移住誘導の推進や中小河川における浸水想定区域のハザードマップへの反映等を行う防災まちづくりを推進します。

中長期では、洗堰分派対策や狭窄部上流の河道掘削等により、中下流域の浸水被害解消を図るとともに、被害対象を減少させるための対策、被害の軽減、早期復旧・復興のための対策についても引き続き実施し、流域全体の安全度向上を図ります。

これらの取組により、国管理区間においては、観測史上最大となった平成12年9月東海豪雨および平成元年9月洪水と同規模の洪水が発生しても安全に流し、さらに流域治水対策により一層の浸水リスクの低減が見込まれます。

4. 今後の展開

庄内川水系流域治水プロジェクトのとりまとめにより、庄内川流域におけるあらゆる関係機関による新たな治水事業の取組がスタートしました。流域においては、気候変動による浸水リスク増大を背景とした安全なまちづくりが求められますが、長期的な検討が必要です。さらに、ため池や雨水貯留施設等の流域治水対策がもたらす治水上の定量的効果を把握する必要があります。今後は本プロジェクトに基づく対策の実施状況のフォローアップ、対策の追加等見直しを実施します。

また、流域治水対策の推進には流域住民の理解と協力・連携が必要であり、昨年度はパンフレットを作成しました。今後も広報活動に力を入れ、庄内川における流域治水を広く住民の方にわかりやすく周知します。

参考URL:庄内川河川事務所:庄内川流域治水協議会

https://www.cbr.mlit.go.jp/shonai/bousai/ryuui_kisui_kyougikai/index.html

7 最後に

庄内川では東海豪雨の教訓を踏まえて、東海豪雨と同規模の洪水による被害を防止することを目標に治水対策を進めてきており、着実に庄内川の治水安全度は向上しています。

また、近年の激甚化する水災害にも備え、流域治水プロジェクトの策定・推進を実行していきます。

しかしながら激甚化する水災害から命を守るためには、行政主導の対策だけでは限界があることも事実です。

一人一人が「施設の能力には限界があり、施設では防ぎきれない大洪水はいつか発生するかもしれない」と意識する必要があります。冒頭でも書きました「自らの命は、自らで守る。」という意識を持って行動することが大切です。



写真12 橋梁改築(JR新幹線橋等3橋)

入庁して1年半が経って



愛知県 尾張建設事務所

馬淵 雄生

令和2年度に愛知県職員となってから1年半が経ちました。日々勉強、苦悩の毎日ではありますが、多くの方々よりアドバイスをいただきつつ、やりがいを感じながら業務をこなしています。

2011年3月に発生した東日本大震災をきっかけとして防災減災対策に興味・関心を持ち、大学では土木工学を専攻、発注者の立場として防災減災対策に関わる工事の主導を担うことに憧れを抱いてきました。大学3年生の時には県のインターンシップに参加し、事業内容詳細に触れることで県職員の業務内容及び自身の携わりたい業務について明確に実感が持てるようになりました。

入庁して3年目になって



豊川市役所 建設部 道路建設課

飛田 修吾

豊川市役所に入庁して、今年度で3年目になりました。入庁してから現在に至るまで、自分の知識や経験不足を痛感しながらも周りの方々に支えていただき、ただがむしゃらに過ごす日々が続いています。

まず、私が土木の道を志したきっかけは、土木技師として働いていた祖父の影響がありました。道路の建設に携わっていた祖父の話を幼い頃から聞いており、初めはただ聞いているだけでしたが、大学進学が近づくに連れ次第に自分も技師として「まちづくりに携わりたい」という気持ちが大きくなっていき、大学では土木工学を専攻しました。

私が所属している道路建設課では、都市計画道路の整備や町内会等の地元要望に沿った市道の整備を行っています。道路の整備を進める中で市民の方と直接関わる事も多

県職員1年目、私は尾張建設事務所河川整備課に配属されました。蓋を開けてみると、ひと口に防災減災対策といっても護岸整備や引堤、河床掘削のほか樹木伐採、排水機場耐震化、調整池整備など多様な方法がとられていることがわかりました。1年目ながら上記に係る複数工事の監督員としての役割をいただいたものの、事務作業に追われ、専門用語に振り回され、常に苦悩の日々でした。そんな苦悩の傍ら細かいことまで相談に乗っていただいたトレーナー、状況に応じた的確な指示をしていただいた上司、更には技術的な話を善意で時間をかけて話していただいた現場代理人の方まで、多くの方々よりアドバイスをいただき、少しずつされど確実に成長した日々でもあったと改めて実感しています。

くあり、技師として必要な土木知識だけでなく、多くの方に理解を頂けるような説明能力を身に付ける事の難しさを実感しています。

入庁当初は、わからない事だらけで毎日が失敗と学びの連続でしたが、その中でも少しずつ知識や経験も増え、初めはついていけない事が多かった上司や受注者との会話にも自分から質問や発言もできるようになり成長を感じています。なぜ成長を感じられたのか振り返ってみると、ただ教わるだけではなく「自ら考え、答えを出す。」環境があったからだと思います。そこで自ら考えた意見を1つの案として肯定し、具体的なフィードバックをしていただいた事で考える力が身に付き成長に繋がったと思います。入庁3年目となった現在では、他の職員に何かを教える機会が増えてきており教える事

現在は2年目として、1年目と同じ席でより多くの監督員を担当しています。馴染みある河川を自宅近くで大規模改修する工事の監督員を受け持っており、ワクワクするようなやりがいを感じています。相まって苦悩も伴いますが、1年目にはできなかった広い視野を持って柔軟に物事に対処していくことを意識しつつ、チャレンジ精神を持ちながら業務に取り組んでいきたいです。

の難しさを実感し、これまで指導していただいた上司や周りの方々の偉大さを感じています。

今は周りの方々に助けられてばかりでまだまだ足りない部分が多くありますが、今後上司として指導する立場になった時に自分が周りの方から頂いた知識や恩を伝えられるよう、日々の業務にマンネリ化すること無く、学ぶ事、考える事を心がけて成長し続けていきたいです。

入社して1年が経って



株式会社ユニオン

市川 聖佳

建設コンサルタント会社に入社し、約1年が経過しました。学生時代は、今とは異なる分野を勉強していたため、建設コンサルタントという仕事についてはあまり知識がありませんでした。入社して最初に感じたことは、建設コンサルタントという仕事が非常に幅広いものだということです。私が所属している部署は農業土木を中心に、畑地かんがいや小水力発電など様々な分野を担当しています。分野の数だけ学ぶことがあり、全てにおいて、一度覚えてそれで終わりというものではありません。私より知識も経験も豊富な上司や先輩方も常に学ぶ姿勢を取り続けており、その姿を見ると自身の未熟さを痛感するとともにもっと頑張ろうという気持ちになります。

入社して半年が経ったころ、飛驒東部にある国営造成地のフォローアップ業務に関わらせていただきました。20箇所ある団地の代表者の方と実際に意見を交換し、灌漑用水や排水施設等に関わる要望や考えをお聞きました。内容は各団地に共通する要望から団地ならではの悩みまで様々です。要望ごとに対策等を検討し、20箇所の団地分の資料を作成しました。資料作成の中で、仕事では専門知識だけでなく文章能力や構成力も重要だと実感しました。また、作成した資料を地元の方に提示し説明する機会もあり、コミュニケーション能力も必要だと感じました。どれも当たり前なことですが、一朝一夕で身につくものではありません。自分の足りない部分を痛感する機会が多い業務でしたが、その分うれしい場面

もありました。地元の方が作成した資料を見て感心していただいたり、今後のために活用したいと言ってくれたときです。建設コンサルタント業界だけでなく、どの業界も誰かの役に立つ仕事をしているのですが、実際に相手の顔や反応を見ることができた今回の仕事は、私にとって非常に大きな経験となりました。

2年目になっても知らないこと、分からないことだらけで、上司や先輩方に助けていただく毎日です。教えていただくだけでなく、自分から学ぶ姿勢を持ち続けたいです。そして、10年後、20年後に昔より成長したと感じると同時にまだまだ成長したいと思える自分になりたいです。

『不安と自信』



中央コンサルタンツ株式会社 本店水環境部
井芹 祐哉

早いものでコンサルタント会社に入社して早5年が経ちました。このような執筆の機会をいただきましたので、これを機に入社してからこれまでを回想してみたいと思います。

入社当初、私は橋梁部門へと配属されました。当時の私は右も左もわからず、ただ必死に日々を過ごしていた記憶があります。基準や指針、飛び交う専門用語、業界では当たり前のこと等、ついていけるか毎日不安でした。転機となったのは鋼橋の維持管理検討業務です。資料収集して情報を整理、損傷のメカニズムを推定し、対策工法を検討する。検討結果をうまく説明し、発注者とともに1つのゴールに向かっていく。ただただ夢中でした。大変ではありましたが、業務が終わった頃には自信にあふれた私がいまいました。

2年目からは的確でスムーズな段取りが求められるよう

になりました。この頃、私は橋梁点検業務を担当していましたが、現場に出つつ、様々な管理者との関係機関協議資料を作成し段取りすることに悪戦苦闘。時には手戻りすることさえもありました。さらに、他の業務も忙しくなってくると、ますます周りが見えなくなり、歯がゆい思いをした記憶があります。

3年目も同様に橋梁点検業務を担当しましたが、ここでは2年目の歯がゆい経験が活き、一担当者レベルではありますが、うまく業務を回せていたと思います。久しぶりに成長を実感。また自信が蘇ってきました。

4年目になり、これまで所属していた橋梁部門から上下水道部門へと部署を異動しました。そこから現在に至るまで、下水道管渠の設計や施設耐震業務に携わっています。部署

異動した当初は、新しい環境に不安を抱えていたように記憶しています。「知らないことだらけの環境で自分は周りの迷惑にはならないか。」そんなことばかり考えていました。それでも、先輩や上長の多大な支援があり、なんとか業務をこなしてきました。一人前の技術者には程遠いですが、今では下水道分野をコア技術として社会貢献をしていくことに誇りを抱くようになりました。

この5年を回想して言えることは、不安の後には必ず自信がついてくるということです。現在私は、目標であった技術士を取得し、技術者として1つのスタート地点に立っているところですが、これからも不安を味方に、「深み」のあるコンサルタント技術者を目指して日々研鑽していく所存です。

私のチーズを探す旅



日本工営株式会社 名古屋支店 営業企画部
部長 佐藤 利紀

ここ数年、テレビドラマなどあまり興味を持って見る機会がなかったのですが、先日某テレビ局で放送されている受験生をテーマにしたドラマを見る機会がありました。学園ドラマだったのですが、50過ぎた大人が見ても痛快でした。特に「問題の本質を見抜き・解決する力」と言うセリフが心に残りました。その時です。「仕事で思こみや勘違いをすることが多くなったなあ、状況を確認せず、無意識に廻りに責任転嫁しているのでは？」改めて思ったのです。

話は変わりますが、昨年は新型コロナウイルスの影響で日本経済は縮小し、業績悪化で苦戦する業界が急増しました。我々建設コンサルタント業界では、国土強靱化政策のもと、第三次補正予算や異常気象が引き起こす災害対策・対応などで大きく業績を伸ばしている企業が多いと感じます。一

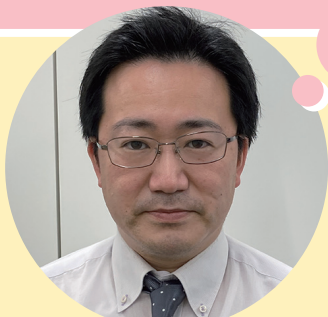
方、コロナ禍の職場では、時差出勤、在宅勤務、サテライトオフィスの利用、リモートによる打合せ・会議など、仕事の進め方、いわゆる「働き方改革」をまったなしで迫られました。

新型コロナウイルスの終息はいまだ見えてこず、不透明な社会・経済情勢が続いています。国家予算の方針も定まらない中で、コンサルタント業界の市場予測・分析は、困難を極めることはいうまでもありません。ですが、不透明な世の中だからこそ、解らないまま流されるだけでは無く、これを機に建設コンサルタントは、アフターコロナの時代に順応し、「問題の本質を見抜き・解決する力」「自分で考えより良い回答を導く力」を備えるべきと考えます。そして、新たなステージにチャレンジし、仕事のやり方や職場環境を大きく変えて行くチャンスと捉えるべきです。少し踏み込んでいえば、建設コンサル

タント業界もAI、IoTの導入を加速させ、VR・AR、BIM・CIMなどの個別技術を活用し、効率的な資本整備に貢献しなければなりません。また、包括的な技術サービスを求められる場面では、異業種連携を推進し、新たな技術プラットフォームに提供していくことも必要です。私は、これらの取り組みから創出される技術提案から、建設コンサルタントの可能性が無限に拡大していくことを信じています。

昔、売れた本で「チーズはどこへ消えた？」という本がありましたが、私もっとも努力して「問題の本質を見抜き・解決する力」「自分で考えより良い回答を導く力」を身に付け、大きなチーズを探しに行くネズミの様になりたいと思います。

建設コンサルタントとして



日本交通技術株式会社 名古屋支店 営業課
富金原 一日

私は40歳になってこの業界に入りました。

私は以前足場リース会社、その後土木建材商社を経て建設コンサルタントへ転職しました。ずっと営業をしていく中で、客先の役に立ちたいという思いが強くなり、そして更により良い提案がしたい気持ちが強くなっていきました。困っている客先(当時はゼネコンや市町村)に提案し、上手いくと信頼を得られる、といった事案には自信がありました。そうしている中、工事中の困っていることに対してやほかの商材に対しての提案はできるが、建設コンサルタントのように設計、強度、工法などはまだ十分にわかっていない為、もっと知り、提案できるようになりたいとの思いが更に強くなりました。そして客先のニーズは何なのか、そしてそのポイントは何かを把握することで環境やコスト面、維持管理面を含め様々な

提案ができるのではないかと思います、建設コンサルタントの業界に飛び込みました。まだこの業界には入ったばかりの新人でありながら、言い過ぎることもあります。今は技術の方々に色々教えていただきつつ、日々精進しております。また客先要望だけでなく自社の技術スタッフが仕事を進めやすいように交渉したりすることも営業の仕事だと思います。そうした日々の積み重ねによって得られる信頼によって、大きい仕事も回ってくると信じております。

この業界では新人ですが、広い意味で土木業界の営業をずっとしてきました。そこで感じたのは、類似現場だとしても一つ一つの現場はどれとして同じものはありませんでした。それぞれが抱えている状況、環境、予算等どれもが違います。そのため悩んだり、失敗したり、考えて乗り越えていくこ

とができる現場がある、それを知ってから面白味を感じれるようになりました。

今の時代は構造物においても新設より補修や維持管理が多くなってきており、更には災害も少なくありません。特に今年はコロナ過でもあり財政面も厳しい中、どのように維持管理をしていくか等大変難しい課題があります。今後どのような提案ができるか悩むところですが、大勢の方々の知恵を結集して今できることを精一杯やることが一つの道筋になっていくのではないのでしょうか。各自治体等発注者も請ける私たちも、安全・安心のインフラを整備し守ることが使命と思って日々業務に励んでいきたいと思っています。

総務部会 運営委員会

運営委員長 小木曾 武則

運営委員会の活動としては、総会、協議会を始めとし各委員会の企画、立案、運営が円滑に進められるよう活動を行っています。

以下に昨年度下半期の主な活動と今年度上半期の主な活動予定についてご報告します。

令和2年度下半期の主な活動報告

■カルチャーセミナー

「建設コンサルタントフェア2020in中部」の基調講演をカルチャーセミナーとして行いました。

- 日 時：令和2年10月31日(土)14:00～
- 場 所：名古屋都市センター
- 講 師：滋賀県立大学人間文化科学部

中井 均 教授

- テーマ：「戦国の城郭から近世の城郭へ」
- 参加者：52名



カルチャーセミナーの様子

■コンプライアンス講習会、賀詞交換会

新型コロナ禍のため中止

令和3年度上半期の主な活動予定

■定時総会受付支援

- 日 時：令和3年4月22日(木)
- 場 所：KKR名古屋

■カルチャーセミナー

- 日 時：令和3年9月1日(水)
- 場 所：名古屋都市センター特別室
- 内 容：「建設コンサルタントフェアin中部」の基調講演を開催予定

■コンプライアンス講習会

- 日 時：令和3年11月8日(月)
- 場 所：名古屋ガーデンパレス
- 内 容：(一社)全国上下水道コンサルタント協会中部支部、(一社)中部地質調査業協会、(一社)日本補償コンサルタント協会中部支部、(一社)愛知県測量設計業協会の5協会共催で、公正取引委員会より講師を派遣頂き、講習会を行う予定

総務部会 災害対策委員会

災害対策委員長 塚本 俊弘

災害対策委員会では、災害時対応訓練に関する事項を分掌しており、行政機関等8団体と締結している災害時支援協定内容の適宜見直し及び支援協定先との協議並びに災害時に備えた情報伝達訓練の企画・運営等の活動を実施しています。

以下に昨年度下半期の主な活動と今年度上半期の主な活動予定についてご報告します。

令和2年度下半期の主な活動報告

■名古屋高速道路公社との災害応急対策支援協定に関する意見交換会

- 実施日：令和2年10月2日(金)10:00～
- 会 場：名古屋高速道路公社黒川ビル2階
- 参加者：名古屋高速道路公社、建コン協中部支部、愛知県建設業協会、日本橋梁建設協会

■名古屋港BCP協議会

- 実施日：令和2年10月9日(金)/12月7日(月)/2月2日(火)
- 会 場：名古屋港湾会館2階
- 参加者：名古屋港BCP協議会構成員

■災害対応・BCP検討WG(建コン協本部)

- 実施日：令和2年12月2日(水)⇒延期
令和3年4月9日(金)WEBにて開催
- 参加者：建コン協本部、各支部

■「令和3年度災害時会員連絡名簿」作成のため支部会員へアンケート調査依頼

- 実施日：令和3年3月25日(木)

■災害対策委員会の開催

- 実施日：令和2年11月25日(水)/2月24日(水)

令和3年度上半期の主な活動予定

■中部支部災害時会員連絡名簿の作成

- 支部会員からのアンケート調査結果を基に支援内容の追加、修正、確認を行い、行政機関8団体の「令和3年度災害時会員連絡名簿」を作成し、協定締結先へ配付を予定

■災害時対応演習

- 実施日：令和3年9月1日(水)
- 災害対策現地本部：中部支部

■名古屋市との災害時対応訓練に係る事前説明会

- 実施日：令和3年8月下旬予定

■名古屋市との災害時対応訓練

- 実施日：令和3年8月下旬予定

■名古屋高速道路公社との災害応急対策支援協定に関する意見交換会

- 実施日：令和3年9月中旬予定

■岐阜県との災害応援協定連絡会議

- 実施日：令和3年5月下旬予定

■静岡県との出動要請・応援訓練

- 実施日：令和3年8月中旬～9月初旬

■災害対応・BCP検討WG

- 建コン協本部と支部との災害時対応演習等の協議

■上記に係る委員会の開催を予定

対外活動部会 対外活動委員会

対外活動委員長 庄村 昌明

対外活動委員会では、発注者との意見交換会を中心に、関係行政機関の窓口として活動しております。昨年度は新型コロナウイルス感染症への対応をしながら、中部地方整備局をはじめ中部4県との意見交換会の開催ができました。今年度も引き続き、意見交換会を通して、協会会員の声を発注者に伝え、課題解決に向けた取組みを進めてまいります。

令和2年度下半期の主な活動報告

■中部地方整備局との意見交換会

出席者の人数を制限し、会議時間を1時間30分として対面で開催しました。

- 開催日：令和2年12月10日(木)
- 場 所：KKRホテル名古屋 芙蓉の間
- 出席者：中部地方整備局 林企画部長はじめ7名
中部支部 上田支部長はじめ15名
- 議 題：・履行期限(納期)平準化と標準履行期間確保
・ウィークリースタンスの徹底
・WEB活用による生産性向上と課題
・情報共有システム(ASP)の活用
・BIM/CIMの運用拡大と実施 など



■岐阜県県土整備部との意見交換会

出席者の人数を最小限とし、会議時間を1時間として対面で開催しました。

- 開催日：令和2年11月25日(水)
- 場 所：岐阜県庁 議会棟 第3面会室
- 出席者：岐阜県 広瀬技術検査課長はじめ4名
中部支部 後藤副支部長はじめ8名
- 議 題：・就業環境改善(ウィークリースタンス推進)
・生産性向上に向けた取組み(WEB会議活用)
・その他(BIM/CIMへの取組みなど)

■三重県県土整備部との意見交換会

三重県庁と支部会議室をWEBで接続し、会議時間を2時間として開催しました。

- 開催日：令和2年12月16日(水)
- 場 所：WEB会議(三重県庁⇄中部支部)
- 出席者：三重県 片田建設企画監はじめ4名
中部支部 中村副支部長はじめ12名
- 議 題：①担い手育成・確保のための環境整備
②品質の確保・向上
③その他(BIM/CIM、WEB会議など)

■愛知県建設局との意見交換会

従来よりも広い会議室を確保し、会議時間を1時間30分として、対面で開催しました。

- 開催日：令和2年12月18日(金)
- 場 所：愛知県東大手庁舎 大会議室
- 出席者：愛知県建設局 上田建設企画課長はじめ18名
中部支部 上田支部長はじめ14名
- 議 題：①担い手確保・育成／就業環境の改善
②品質の確保・向上
③その他(BIM/CIMの取組み等)

■静岡県交通基盤部との意見交換会

静岡県庁と支部会議室をWEBで接続し、会議時間を2時間として開催しました。

- 開催日：令和2年12月23日(水)
- 場 所：WEB会議(静岡県庁⇄中部支部)
- 出席者：静岡県 大滝参事はじめ8名
中部支部 牧村副支部長はじめ12名
- 議 題：①担い手育成・確保のための環境整備
②品質の確保・向上
③フリーディスカッション

■「地域コンサルタント委員会」への対応

建コン本部「地域コンサルタント委員会」の依頼により、以下の調査を実施しました。

- ①中部地整管内の発注案件調査
・「地域要件等が付された総合評価落札方式の調査」
・「総合評価方式(一括審査方式)の調査」
- ②発注者ウィークリースタンス等施策の実態調査

令和3年度上半期の主な活動予定

令和3年度上半期は以下の活動を予定しております。

■令和3年度「要望と提案」意見交換会(7/12)

■建設技術フェアin中部2021(学生交流ひろば)
(10/13～14開催、吹上ホール)

■愛知県建設局「イブニングサロン」への対応

■建コン本部各種調査への対応

■発注者との意見交換会に向けた準備

今後も発注機関との連絡・調整を中心とした活動により、協会活動が円滑に進行できるよう努力してまいりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

対外活動部会 編集委員会

編集委員長 伊藤 博之

編集委員会の活動は、広報誌「図夢in中部」を年2回(1月、8月)編集・刊行することにより、中部支部における諸活動の状況及び新規事業等を主に、建設コンサルタントに関する各種の情報を会員各社及び官庁、大学の方々に提供しています。

令和2年度下半期の主な活動報告

■「図夢in中部Vol.45・46合併号」の発刊

2021年1月発刊に向けて45・46合併号の編集を行いました。内容といたしましては、

- 特集は、名古屋高速道路公社 理事長 新開 輝夫様に「名古屋高速道路公社設立50周年を迎えて」の内容につきまして、執筆して頂きました。
- 巻頭言は、中村副支部長に執筆していただきました。
- 投稿は、愛知県・岐阜県職員の方に執筆いただき、会員の投稿は4名頂きました。
- 支部会員会社紹介は、大增コンサルタンツ、ニュージェックの2社に頂きました。
- 協会活動紹介は、部会報告・各委員会の2020年度上半期の活動報告と下半期の活動予定を記載しております。
- 事務局だよりは、コロナ禍での1年、7月豪雨対応・岐阜県知事の感謝状、これからの対策についてを記載しております。



図夢 in 中部 Vol.45・46 合併号

令和3年度上半期の主な活動予定

■「図夢in中部Vol.47号」の発刊

2021年8月発刊に向けて47号の編集を行っております。
●6月22日に編集委員会を行い、各項目につきまして確認を行ってまいります。

編集委員会では、中部支部の活動状況や情報を「図夢in中部」とHPを通じて紹介しています。
(<http://www.ccainet.org>)

今後も会員皆様からのご支援を頂き、活動状況をわかりやすく、親しみやすい内容で提供していきたいと考えています。

対外活動部 事業広報委員会

事業広報委員長 木村 孝延

事業広報委員会では、建設コンサルタントが「安心・安全・快適な暮らし」を実現するためにどのような役割を担い、どのように貢献しているかを広く一般の方々にご理解いただけるように、また学生の方々に対して業界の知名度を上げ、次代を担う技術者を確保するために、社会貢献活動を通じて業界活動をPRしていくことを目的として、これらの活動の企画・運営を行っています。

以下に昨年度下半期の主な活動と今年度上半期の主な活動予定についてご報告します。

令和2年度下半期の主な活動報告

■業界説明会の実施

今年度も中部地区にある9大学・2高専で業界説明会を予定していましたが、コロナの影響もあり開催自体を見送る学校もあり4大学・1高専での実施となりました。



業界説明会の様子

説明会の開催を見送る学校が増えてきた中、対面ではなくHP上でのPRビデオの配信や、WEB上での開催を学校側から求められたり、対面以外での実施の可否の問い合わせを受けたりする機会が増えてきました。

現在、協会としてビデオの制作などについて検討いただいている状況ではありますが、今後の業界説明会の開催方法としての需要が高まることが予想されるので、委員会としてもできる限り協力していきたいと考えています。

■協会広報誌等の配布

会員名簿や図夢in中部等協会広報誌等の客先への配布も、前回同様郵送での対応となりました。

事業広報委員会では、組織改革による送付先の変更や、役職名などの確認を行い、送付先リストの作成を行っています。

令和3年度上半期の主な活動予定

■建設コンサルタントフェア2021の開催

- 開催日時：令和3年10月23日(土)
- 会場：金山総合駅コンコース
名古屋都市センター 14F特別会議室
- 展示内容：建設コンサルタントの役割パネル展示
フォトコンテストの開催
土木が分かる実演模型の展示 等

昨年度は規模を大幅に縮小し開催した建コンフェアを、今年度は会場を金山コンコースに戻し実施する予定で活動しています。例年実施している集客のための声掛けや、記念品の配布をどうするかなど例年とは違う課題が多いイベントとなりそうですが、開催実現に向け検討していきます。

■広小路夏祭り「打ち水大作戦」への参加

6月時点で夏祭り実行委員会からの詳細な情報はなく、夏祭りの開催自体が未確定なため、現段階では「開催するようであれば検討する」状況です。

■業界説明会の実施

今年度も業界説明会を実施できるよう、各校に対し現段階での予定を確認中です。

例年では夏休み以降に開催される事がほとんどとなるため、今後の動向に注意して学校側の担当者と連絡を取り合い、開催できるよう調整を進めます。

■業界広報誌等の配布

今年度も機関誌等の配布については郵送での対応となります。

毎年変わる客先の組織名や役職について確認し、発送のお手伝いをします。

情報部 情報委員会

情報委員長 鹿田 竜一

情報委員会では、会員企業内・外に対する支部活動の情報発信や、ホームページを中心とする支部内情報インフラの整備など、情報技術に関する活動を企画・管理・運用しています。

令和2年度下半期の主な活動報告

■ホームページ運用管理

定期的な情報発信に加え、講習会・発表会などの資料や動画の掲載、セミナー等のWeb受付を行いました。

■ICTアンケート企画

会員企業に有益となるICT関連情報の収集、および共有を目的としたアンケートについて、テーマを検討しました。

■ICT相談担当者

支部事務局および各部会からの、ICTに関する相談を受け付け、対応しました。

■フォトコンテスト

コロナ禍の影響により今年度は中止しましたが、建設コンサランツフェア(2020/10)会場にて、過去の受賞作品を展示しました。



過去受賞作品の展示

令和3年度上半期の主な活動予定

■ホームページの運用管理

定期的な情報発信に加え、図夢in中部の掲載、講習会等の資料および動画掲載を行います。また、サイト内で運用中のグループウェア「アルファオフィス」の運用方法を検討します。

■ICTアンケートの実施

支部会員企業の皆様を対象に、テレワークに関するアンケートを実施する予定です。回答いただきました内容については整理・分析を行い公開する予定です。

■ICT相談担当者

支部事務局および各部会からの、ICTに関する相談を受け付け、対応します。

■その他

当委員会への要望などございましたら、メールで気軽にお寄せ下さい。(情報委員会メールアドレス:johou@ccainet.org)

情報部 ICT委員会

ICT委員長 北島 寿男

ICT委員会では、ICTに関する情報収集と提供、対応状況の把握、関係機関との連絡調整等を通じ、支部会員へのICT普及支援を目的とした活動を行なっています。令和2年度はコロナ禍による感染防止を考慮し、講習会はすべてWeb形式で開催いたしました。

令和2年度下半期の主な活動報告

■BIM/CIM Webセミナー

支部ICT委員会主催により、10/29(木)に開催しました。BIM/CIMの概要説明や、CIMツールの実演を通して関連知識の取得を目的とし、47社139名の参加がありました。

■道路設計者のためのBIM/CIM Webセミナー

支部ICT委員会主催により、11/10(火)に開催しました。CIMツールの実演などを通して道路業務に必要なBIM/CIMの知識取得を目的とし、31社53名の参加がありました。

■BIM/CIMリクワイヤメント対応のためのWebセミナー

支部ICT委員会主催により、12/3(木)に開催しました。CIMツールの実演などを通して技術者がBIM/CIMを実業務に適用する方法の取得を目的とし、32社63名の参加がありました。



Webセミナーの配信状況

■発注者との意見交換会

BIM/CIMの普及に関する発注者との意見交換会や職員研修に参加しました。意見交換会では、国土交通省中部地方整備局、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県の各担当者とBIM/CIM導入状況などについて意見を交わしました。



中部地方整備局との意見交換会

令和3年度上半期の主な活動予定

■BIM/CIMに関する講習会の開催

支部会員へのBIM/CIM関連情報の提供、および技術力の向上を目的とした講習会を開催いたします。コロナ禍による感染防止のため、講習会はすべてWeb形式とします。今年度は計4回を予定しています(日時未定)。

■発注者との意見交換会

国土交通省中部地方整備局や各県との意見交換会に、ICT委員より参加予定です。

■その他

当委員会への要望などございましたら、メールで気軽にお寄せ下さい。

(ICT委員会メールアドレス: ict@ccainet.org)

技術部会 道路委員会

道路委員長 水野 耕治

道路委員会では、講習会・見学会・講師派遣等の技術交流を通じて、道路関連事業に従事する技術者の技術力の向上を図るとともに、建設コンサルタントフェア等を通じて建設コンサルタントの役割が広く理解されていくことを目的として活動しています。

なお、令和3年度の道路検討グループへは、39社201名のご登録をいただきました。

以下に昨年度下半期の主な活動と今年度上半期の主な活動予定についてご報告します。

令和2年度下半期の主な活動報告

■定例委員会の開催

1) 令和2年度第8回道路委員会

- 開催日: 令和2年11月25日(水) 10:00～
- 場 所: セントラルC会議室
- 内 容: 第8回役員会、第3回技術部会報告、業務技術発表会での課題(申し送り事項等)、自治体意見交換会、中部地区無電柱化推進会議等について

2) 令和2年度第9回道路委員会

- 開催日: 令和2年12月22日(火) 15:00～
- 場 所: 建コン事務局
- 内 容: 第9回役員会報告、技術Web講習会の報告、次年度活動計画(総会、講習会、現場見学会)、中部地整意見交換会、愛知県意見交換会等について

■現場見学会

- 開催日: 令和2年9月30日(水) 13:00～17:00
- 場 所: 日本コンクリート(株)小牧工場
- 参加者: 13社20名(内5名委員)
- 説明者: 営業本部営業部 小島 弘揮次長
水野 賢一技術営業課長



工場見学の様子

■建コンフェア2020in中部

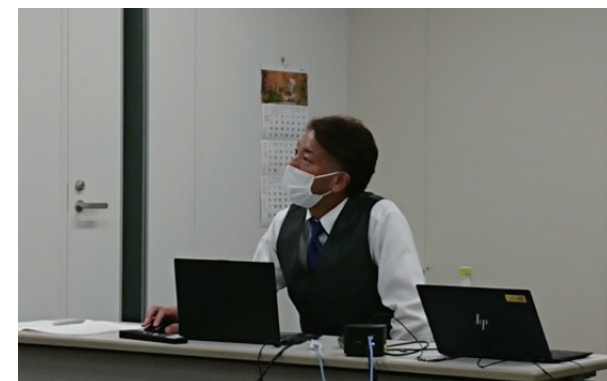
- 開催日: 令和2年10月31日(土) 10:00～16:00
- 場 所: 金山総合駅コンコース
- 内 容: パネル説明

■第1回 道路技術講習会

- 開催日: 令和2年11月25日(火) 13:30～16:30
- 場 所: Teamsによるweb配信
- 内 容: 三次元測量と道路計画
 - ①道路設計における3次元測量
中日本航空株式会社 宮田 大明
 - ②3次元地形モデルを利用した道路計画
株式会社エムティーシー 鶴木 裕一



宮田講師の講演の様子



鶴木講師の講演の様子

令和3年度上半期の主な活動予定

■令和3年度道路検討グループ総会

- 開催日: 令和3年7月2日(金) 14:00～16:30
- 場 所: 建コン中部支部会議室(事務局)
- 内 容: R2年度活動報告及びR3年度活動方針
(基調講演/Web配信)
- 演 題: 社会実装を見越した自動運転とサービス連携
による地域の移動支援の実践
- 講 師: 名古屋大学 未来社会創造機構
モビリティ社会研究所 中村 俊之 特任准教授

■委員会活動

4～12月に毎月1回の活動を予定しています。

■技術講習会

開催は、8月頃と11月頃の2回を予定しています。講習内容は、維持管理・防災・CIM・新技術・新工法等をキーワードに委員会でテーマを検討していきます。

■現場見学会

開催は、9月頃を予定しています。見学場所は中部地方で行われている土工事・構造物工事現場やメーカーの工場見学等を予定しています。

■講師派遣

1) 中部地整エキスパート研修

- ・トンネル点検(1講座、1名)
- ・のり面・土構造物点検(1講座、1名)

2) 愛知県建設技術研修・道路計画実務講座

- ・道路計画・設計実務講座(5講座、5名)

3) 愛知県建設技術研修・設計エラー防止講座

- ・道路/トンネル

4) 愛知県建設技術研修・土木施工技術講座

- ・盛土、切土の設計と法面の安定(1講座、1名)

5) 三重県建設技術研修

- ・道路構造令の解説と演習(1講座、1名)
- ・構造物設計(1講座、1名)

技術部会 河川委員会

河川委員長 石崎 伸明

河川委員会では、河川の専門技術に関する交流活動、現地見学会、技術セミナーの開催、業務技術発表会への参加等を通じて、会員の皆さんの技術交流と情報交換を図るとともに、協会活動の推進、中部地整との意見交換会等によって、コンサルタントの地位向上ならびに河川業務の円滑な実施のための環境づくりを目指し、活動しております。令和2年度は、当会員へ29社213名のご登録をいただいております。

以下に、昨年度下半期の主な活動と今年度上半期の主な活動予定についてご報告します。

令和2年度下半期の主な活動報告

■河川技術セミナー

- 開催日：令和2年12月2日(水) 13:05～17:00
- 会場：ウインクあいち 901会議室
- 開催方法：動画録画を後日建コン中部支部HPで配信
- 講師/演題：①国土交通省 中部地方整備局 河川部 河川計画課 課長 池原 貴一 氏
『気候変動を踏まえた
今後の水災害対策の方向性
～あらゆる関係者が流域全体で行う
持続可能な「流域治水」への転換～』
- ②名古屋大学 減災連携研究センター
副センター長 ライフライン地盤防災産学
協同研究部門 田代 喬 特任教授
『超音波流向流速計の生態水理学への
展開』
- 参加者：8名
(整備局1名、技術部会長、建コン河川委員6名)



池原課長の講演の様子



田代特任教授の講演の様子

■分科会活動

1) 第一分科会(河川計画・環境)

- 開催日：令和2年11月18日(水) 13:30～15:00
- 開催方法：Teamsでのオンライン講習(事務局)
- 講師：中部大学 都市建設工学科 杉井 俊夫 教授

『近年の豪雨に対する堤防強化のあり方
ー浸食と侵食ー』



杉井教授の講演の様子

2) 第二分科会(河川構造計画・設計)

- 開催日：令和2年11月26日(木) 13:30～16:30
- 開催方法：Teamsでのオンライン講習(事務局)
- 講師：①川田テクノシステム株式会社
『河川堤防における3Dモデル作成事例』



講演の様子

② 株式会社加藤建設

『海岸堤防の耐震対策としての
パワーブレンダー工法の事例紹介』



講演の様子

3) 中部地方整備局河川部との意見交換会

- 開催日：令和3年3月23日(火) 9:30～10:30
- 開催方法：WEB会議
- 出席者：整備局 池原河川計画課長、赤畠課長補佐、
堀江河川管理課長、林河川保全専門官
建コン 上村部会長、石崎河川委員長、
中村河川副委員長
- 内容：①整備局からの情報提供
②「防災・減災、国土強靱化のための
5か年加速化対策」への対応 等

令和3年度上半期の主な活動予定

令和3年度は、当会員へ32社227名のご登録をいただいております。

今年度の委員会活動は、新型コロナの状況を踏まえ、会議形式、Webやメール形式等の最適な方法で行います。

■委員会活動：4～12月の間で9回開催予定

■令和3年度 河川検討グループ総会

7月7日(水)に開催予定

■講師派遣：愛知県・三重県の技術研修の講師派遣

技術部会 構造土質委員会

構造土質委員長 北堀 裕隆

構造土質委員会は、「橋梁をはじめとする構造物関係技術者の技術の研鑽・向上、ならびに会員相互の交流」を活動方針として、構造土質検討グループ会員に向けた橋梁・構造物技術に関する講習会や現場見学会などの行事の企画・運営、および中部地方整備局等との業務改善に関する意見交換などの対外活動を通して、会員の皆様の資質向上、並びに建設コンサルタントの地位向上を目指して、委員長以下20名にて活動しています。

令和2年度は、構造土質検討グループへ30社239名と多くの方々にご登録いただいております。

以下に昨年度下半期の主な活動と、今年度の活動予定についてご報告します。

令和2年度下半期の主な活動報告

■委員会活動

12月まで1か月に1度、役員会・技術部会報告、対外活動などの報告、技術講習会の立案検討などについて討議しました。

■技術講習会(WEB開催)

令和2年度 構造・土質委員会 技術講習会が開催されました。今回は新型コロナウイルス感染症のリスクを回避するため、WEB配信にて講習会を実施しました。

- 日時：令和2年12月10日(木) 13:15～17:00
- 場所：建コン中部支部会議室(ライブ配信)
- 参加者：32社・79名(内、委員15名)
- 内容：講習①「鋼橋解体工事の留意点」
講師：日本橋梁建設協会 吉川氏
講習②「ニューマチックケーソン工法の解説と設計」
講師：日本圧気技術協会 目黒氏、矢野氏
講習③「プレキャストPC床版を用いた
床版取替工法」
講師：プレストレスト・コンクリート建設業協会 加藤氏

講習①では、鋼橋の解体撤去工事の留意点と題して以下の内容でご講演いただきました。

- 1.概要
解体撤去の背景と基本的留意点
- 2.床版解体撤去
切断破砕の種類と特色、床版撤去事例と留意点、事故事例に学ぶ
- 3.鋼桁解体撤去
解体撤去工法の分類と工法選定、工法別の特色と留意点、解体事例と留意点、事故事例に学ぶ

劣化が進行した橋梁架け替えが増える中、需要が高まっている既設橋梁の撤去技術について、調査・計画から施工に至るまでの詳細な説明をいただきました。

新設橋梁と異なり、解体の大半が不可逆的な作業であり、部材の損傷による強度低下や部材補強等による形状や重量変更を踏まえた計画が必要であると説明がありました。撤去技術については、床版・鋼桁それぞれについて様々な工法を紹介いただき、特徴や施工手順の他、貴重な事故事例から学ぶべき留意事項に至るまで多岐に亘る説明をいただきました。

講習②では、ニューマチックケーソン工法の施工及び設計手法について、ご講演いただきました。

1.ニューマチックケーソン工法の施工

概要と原理、施工技術、工法の歴史と現状、工法特有の留意点、特徴

2.ニューマチックケーソン工法の設計

工法の特徴、施工時の部材設計、設計の歴史道路橋ケーソンの設計のポイント

最初に、ニューマチックケーソン工法の施工に関して、日本で独自の進化を遂げてきた歴史や工法の原理、施工品質や耐震性能の高さ、減圧方法などの説明をいただきました。次に、設計に関して、施工手順、設計手法の変遷の説明の後、設計フローに沿った具体的な照査方法や留意事項の説明をいただきました。

講習③では、既設橋のプレキャストPC床版への取替えについて、ご講演いただきました。

1. 床版の損傷について

2. プレキャストPC床版の製作

3. 既設床版の撤去

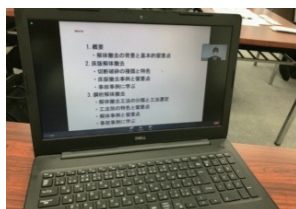
4. プレキャストPC床版の架設

5. 床版取り替え工事の発注・工事状況

床版の様々な劣化機構を説明いただいた後、床版製作に関する手順や製作、既設床版の撤去、プレキャストPC床版の架設について、製作や作業状況の写真をしながら解説いただきました。また、事例の工事動画の視聴により、受講者は施工手順や施工要領について、具体的な施工イメージを持つことが出来ました。その他、協会のホームページを活用して、既設橋梁(PC橋)の施工履歴や基本諸元をデータベースから検索出来ることも教えていただきました。



事務局での講演状況



パソコン配信状況

■現場見学会

現場見学会を、下記のとおり実施しました。感染対策として「検温」「消毒」「マスク配布」「バス席の配慮」「接触確認アプリの登録」等を行い実施しました。

●日時：令和2年12月16日(水)12:30～17:30

●場所：新濃尾大橋(仮称)

・愛知県一宮市～岐阜県羽島市

・L=759m(423m+336m)

・5+4径間連続非合成箱桁橋

・ニューマチックケーソン基礎

●参加者：12社・20名(内、委員6名)

●説明者：名工建設 山田所長、明ヶ谷氏

1.工事概要説明

現場事務所内において、工事概要とニューマチックケーソン基礎の施工方法について説明をして頂きました。平成29年度より工事が進められており、P3橋脚の施工をもって下部工が完成予定です。この工事は、木曽川右岸から仮栈橋(LIBRA工法)約240mを設置し、小判型のケーソン1基を圧気工法で42.2m沈設させる工事となっています。質疑応答が活発になされ、非常に興味深い工法であったことがうかがえました。

2.ニューマチックケーソン工事見学(沈下掘削+ケーソン設備)

屋外(工事)と屋内(設備)の2つの班になり、橋脚、ケーソン基礎の施工状況や設備を見学することができました。屋外では、構築済みの仮栈橋(LIBRA工法)を通り、P3橋脚の躯体構築、基礎掘削の状況を確認することができました。屋内では、ケーソンの無人掘削のモニターや精度管理状況を実際の設備を用いて説明をして頂きました。施工中にしか見ることができない特殊な機器や設備ばかりで貴重な経験ができました。



事参加の集合写真



見学前の座学状況

令和3年度上半期の主な活動予定

■委員会活動

4月～12月の間で9回開催予定です。第1回から第2回は実施済みです。

■令和3年度 構造土質検討グループ総会

●開催日時：令和3年7月15日(木)

●会場：建コン中部支部会議室(ライブ配信)

●内容：1.令和2年度活動報告

2.令和3年度活動計画

3.講演 「鋼橋の補修・補強の勘どころ」

名古屋大学大学院 工学研究科土木工学専攻

館石 和雄 教授

■技術講習会

技術講習会は、以下の2回開催予定です。

●第1回：令和3年9月下旬予定

●第2回：令和3年11月下旬予定

技術講習会テーマは、今後検討していきます。

■見学会

見学会は、10月下旬に開催を予定しています。場所は、構造土質委員会にて検討していきます。

■コンサルタント業務技術発表会

技術部会主催の4委員会合同行事として開催します。

●開催日：令和3年10月8日(金)

●会場：ウイंकあいち(名古屋市中村区)

■講師派遣

愛知県建設技術研修(7月/9月/10月)に、14講座延べ16名の講師を派遣予定です。

＜事例でわかる土木設計実務講座＞

設計事例演習・解説

＜設計エラー防止実務講座＞

エラー防止への対応について

土質・地質調査の計画、実施及び結果の評価／橋梁

＜橋梁維持補修(橋梁点検)講座＞

橋梁定期点検について、点検調書作成

現場実習(Co橋)／現場実習(鋼橋)

点検結果の解説及び診断結果について(Co橋)

点検結果の解説及び診断結果について(鋼橋)

＜橋梁設計実務講座＞

橋梁計画概論

仮設構造物の計画設計／橋梁上部工の設計

橋梁下部工の設計／耐震設計と補強工法

■各種発注機関との意見交換会

中部地方整備局、各地方自治体(愛知県、三重県、静岡県、岐阜県)、NEXCO中日本名古屋支社との意見交換会等を随時開催していきます。

■改訂道路橋示方書WG

建コン本部主催のWGに、中部支部として参画します。

■構造土質たよりの発行

委員会活動、各WG開催行事の報告等について、「構造土質委員会だより」として発行します。

技術部会 都市計画委員会

都市計画委員長 河村 和紀

都市計画委員会では、都市整備WG、交通WG、ランドスケープWGの3つのワーキングで実施する専門技術に関する交流活動、見学会や講習会の開催等を通じて、会員の皆さんの技術交流と情報交換を図るとともに、(一社)建設コンサルタンツ協会中部支部の活動を推進することによって、コンサルタントの地位向上ならびに都市計画業務の円滑な実施のための環境づくりを目指し、活動しております。なお、都市計画検討グループは、令和2年度196名(24社)のご登録をいただきました。

令和2年度下半期の主な活動報告

■都市計画委員会

下半期(10月～3月)の委員会は3回開催し、各WG活動結果の報告、課題、今後の対応やたよりの発行などについて協議をしました。

■WG活動

①都市整備WG：講習会

新型コロナウイルス感染症の拡大は、人々の生命・生活や地域経済に甚大な影響を与えています。新型コロナの危機によって、「都市における過密」という課題が改めて顕在化し、これまでの都市における働き方や住まい方等の見直しを迫られています。新型コロナの収束の見通しが不透明の中、これからの都市、さらには多くの都市で取り組みが始められている「スマートシティ」は今後どうあるべきかが議論されています。

本講演会は、スマートシティや少子高齢社会の共創まちづくり等を専門とされている東京大学の小泉秀樹教授を講師にお招きし、スマートシティの系譜と類型、日本におけるスマートシティの課題等について、国内外の先進事例の紹介も併せて解説いただき、コロナの時代におけるリアルとバーチャルが連携した都市計画のあり方と目指すべきレジリエントな都市像について示唆をいただきました。そこには、「都市における多様な価値規範づくりとその実現においてバーチャルの進展をリアルに活かす、実験的な取り組みで人々の行動変容を生み出すことの重要性」が提言されました。

意見交換ではスマートシティや



写真1 都市整備WG講習会の様子

スーパーシティを具現化する際には、社会に対して多様なコミットメントを果たせる地域内外のスマート人材によるシビックテックの協働によるまちづくり土壌づくり、ICTを活用した参加型まちづくりプラットフォームの組成と住民のコンセンサスに基づく段階的なステップアップのまちづくり、行政の取り組みとして首長の理解とリーダーシップ、自治体職員の人材育成が重要であることを再認識しました。

- 日 時：令和2年11月24日(火)14:30～16:30
- 講演方式：WEBによるオンライン講習会
- テ マ：スマートシティとこれからの都市計画
その論点とは
with/postコロナの都市像を視野に
- 講 師：東京大学 工学系都市工学
先端研まちづくり研究室 小泉 秀樹 教授
- 参 加 者：34名(16社)

②交通WG：講習会

経済・社会情勢は大きく変化し、「交通分野」をはじめ、まちづくりを取り巻く環境や求められる役割も大きく変化してきています。近年の開発プロジェクトは、「計画無きところに開発なし」の理念が薄れつつあることから政策的な視点が求められており、改めて「計画」のもつ意味や役割を考え直すこと重要性が問われているように思われます。

本講習会は、建コン都市計画委員として長い間活躍された熟練技術者の三輪氏(元㈱日建設計画部長)、大森氏(㈱国際開発コンサルタンツ顧問)のお二人を講師にお招きし、様々な開発プロジェクトに関わられた際の経験談や苦労話等を通じ、現役技術者への提言として「計画」の重要性をお話いただくとともに、講師同士の対談を通じ、様々な視点からまちづくりや交通計画のあり方を考えていただく講習会を実施しました。

講演パートでは、三輪氏より日建設での経験から、いろいろとお話いただきました。

名古屋都市高速道路では、都市計画決定した道路計画が実現不可能というところからの方針変更の経緯や、全国では異例の計画交通量にPTベースの推計値を利用したとの話がありました。

セントレアPTBでは、使いやすさの追求というコンセプトから搭乗口に至る経路をフラットアクセスにした経緯や、自動車でアクセスする1階カーブサイドの車道を歩行者がフラット移動できるように横断歩道部の車道を盛り上げたことで警察との調整が難航したとの話がありました。



写真2 交通WG講習会の様子

対談パートでは、空港の施設計画の根幹的な思想は何であったかの問いに対し、需要喚起型とのことで、実は空港は世界的には航空利用費以外の収入が重要であるとのことでした。また、車社会を前提とした計画の今後についての問いに対し、新しいモビリティによる、たとえば自動運転などの技術によりまちづくりにもイノベーションが起こっていくだろうとのことでした。

- 日 時：令和2年11月19日(木)10:00～12:00
- 講演方式：WEBによるオンライン講習会
- テ マ：技術者経歴50年の歩みと今後への提言
～熟練技術者の経験談と
現役技術者へのメッセージ～
- 講 師：三輪 哲夫 氏
(元建コン中部支部都市計画委員長、
元㈱日建設計画部長)
大森 和仁 氏
(元建コン中部支部都市計画委員、
㈱国際開発コンサルタンツ顧問)
- 参 加 者：26名(11社)

③ランドスケープWG：見学会・講習会

近年、「居心地がよく歩きたくなるまちなか」の創出を目指して、まちなかウォークアブル推進事業が創設されるなか、ウィズコロナ、アフターコロナを見据え、都市のウォークアブルな空間とオープンスペースを組み合わせる歩行者のネットワークを形成することが重要となっています。街路空間や公園・緑地などの公共空間を活用し、地域の多様なニーズに応じて柔軟に活用することが必要であり、そのための公民連携の試行や人材の育成、ノウハウの展開が求められている状況です。

そこで、これらの活動を実践されている講師をお招きし、これまでの事例などを通して、コロナ禍のなかで我々が取り組むべきパブリックスペースのあり方を学ぶ場として、見学会・講習会を実施しました。

見学会では、最新のパブリックスペースの事例として、Park-PFIを用いてリニューアルした「Hisaya-odori Park」を名古屋市の職員の方に案内・説明いただきました。地下のセントラルパークとのつながりや、シンボルである



写真3 ランスケWG見学会の様子

名古屋テレビ塔が園内のどこからでも見通せる配置、大型デジタルサイネージによる情報発信、水盤やミストによる都会的なビュースポットとゆったりした憩いの空間であるシバフヒロバなど、様々な人にとって居心地が良く、歩きたくなる新たな「久屋大通公園」の工夫がよく分かりました。

講習会では、以前より先進的な実践活動に取り組まれている泉山先生から「これからのウォークアブルシティとパブリックスペース」というテーマで様々な事例を含め、具体的なお話をお聞きしました。体系的に整理された分かりやすい内容で、「空間をつくる人はいても、活用をコーディネートする人がいない」「日常が都市をつくる」「空間をつくってから何をしよう?ではなく、はじめに人のアクティビティを配置すべき」など、公共空間のデザインや利活用に関わる者にとって、非常に有用な考え方のヒントをいただき、多くの気づきが得られました。

- 日 時：令和2年11月10日(火)14:30～16:30
- 場 所：見学：Hisaya-odori Park(愛知県名古屋市)
講習：アクセア栄貸会議室
- テ マ：コロナ禍で、我々が取り組むべき
パブリックスペースのあり方について学ぶ
- 講 師：見学：名古屋市住宅都市局
リニア関連都心開発部
都心まちづくり課 猪俣 氏
講習：日本大学理工学部建築学科助教
(一社)ソトノバ共同代表理事・編集長
泉山 壘威 氏
- 参加者：34名(15社)

■都市計画たよりの発行

委員会活動や各WG開催行事報告等について、「都市計画委員会だより」を発行しました。

令和3年度上半期の主な活動予定

■都市計画委員会

4月から9月までに6回の開催を予定しており、今年度の活動内容等について検討します。

■総会

令和3年度都市計画検討グループ総会は、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、例年のように一堂に会しての開催は断念し、WEBによるオンライン配信にて実施する予定です。是非ご参加ください!

- 日 時：令和3年7月20日(火)15:00～17:00
- 内 容：①令和2年度の活動報告と令和3年度の活動方針
②令和2年度決算報告と令和3年度予算
③講習会
テ マ(仮)：アフターコロナの魅力ある
東海地方のまちづくり
講 師：名古屋学院大学 現代社会学部教授
井澤 知旦 氏

若手の会WG

サブリーダー 齊藤 正明
(技術部会所管)

中部若手の会WGは、令和3年度になり平成29年の発足から5年目に突入しました。

今年度に入り、メンバーの大幅な交代があり、今回で3期目となりました。

令和2年度下半期の活動内容と令和3年度上半期の予定を報告させていただきます。

令和2年度下半期の主な活動報告

■「JOB Café in名古屋」の開催

1. 開催目的

学生が職業選択を行うにあたって「建コン」について知る機会、現状、インターンシップや新卒採用向けの企業説明会など、特定の企業とのつながりに限られています。そのため、就職活動を控えた学生と若手技術者が自由に話すことで、学生側が「建コン」業界全体を知る機会と、有益な情報を得られる場を創出することを目的としました。

2. 開催内容

「気軽に建コンを知ってもらう」ことをコンセプトと設定して、お洒落なカフェを貸し切り、ドレスコードはメンバーを含めて参加者全員が私服としました。(2020/11/22開催)



写真1 ジョブカフェの様子

3. 開催結果

参加した学生の方より、「建コンを知るよい機会だった」等の好評を得られました。また、建設コンサルタントを志望されている学生の方も多いことが意外でした。このことから、ジョブカフェを定期的実施して、建設コンサルタント業界の認知をより広め、深い話をしていきたいと思いました。

■イブニングサロンへの参加

1. 参加目的

愛知県が主催する学生への業界PRの場である「イブニングサロン」に参加して、就職活動を行う学生の方に「建コン」の“魅力”を伝えて“未来の建コン技術者”を増やすことが目的です。

2. 参加概要

愛知総合工科高等学校にて開催されたため、若手の会WGメンバーより1名が参加させていただきました。(2020/10/20開催)

3. 感想

例年、参加させていただいており、建コンの魅力を伝えていますが、なかなか浸透していない印象を受けました。ジョブカフェと併せて情報発信の場または方法を検討する必要があると考えています。

令和3年度上半期の主な活動予定

昨年度までの状況等を踏まえて、以下の活動を予定しています。

①JOBカフェ

昨年度開催後に実施した参加者へのアンケートでは、好評であったため今年度も実施する予定をしています。

上半期⇒開催内容・規模等を検討・決定

下半期⇒準備・開催予定

※定期的(年1回程度)に実施する予定です。

②イブニングサロン

愛知県からの要望に応じて参加します。

③本部イベント

「業界展望を考える若手技術者の会」(本部若手の会)が主催するWILLSUMMITを含めて本部若手の会との連携を図ります。

④離職率ダウンに関する活動

昨年度までの活動を振り返ると、ジョブカフェ等の入職者アップに関する活動は比較的实施してきました。

しかし、離職率ダウンに関する活動がなかったため、勉強会の開催等により離職率ダウンを目指した活動を行いたいです。

⑤テレワーク時の業務管理を始めとする悩みや課題・解決案等を共有できる勉強会の開催を行い、コロナ渦における業務のやり方を改善できればと思っています。

女性の会WG

リーダー 所 三枝
(総務部会所管)

女性の会WGの令和2年度の下半期の活動内容、令和3年度の活動予定をご報告させていただきます。

令和2年度下半期の主な活動報告

■「JOB Cafe」への参加

中部支部若手の会主催によるJOB Caféに女性の会からも参加しました。

◎JOB Cafeとは

普段の生活の中で、建設コンサルタントの仕事や活躍の場を目にする機会はあまり多くなく、学生が土木業界への就職を志す上で不安や疑問を抱えることも少なくありません。そこで、説明会とは違い社会人も学生も私服で集まり、軽食を楽しみながら気軽に話せるイベントです。

◎JOB Cafeの概要

- 日 時: 令和2年11月21日(土)
- 場 所: 名古屋市内 某Cafe
- 参加者: 23名(うち学生10名)
- プログラム: ①建設コンサルタントとは?
②建コン若手のある一日
③建コンに就職を決めた理由
／入社前後のギャップとやりがい
④フリートーク・記念撮影



JOB Cafe参加メンバー

◎開催結果

当日は、参加者の検温や、十分な換気を行うなど、万全な新型コロナウイルス感染予防対策のもと開催しました。コロナ禍での就職活動は、学生も企業も戸惑いの多いことと思います。コロナ禍においてもこのようなイベントを開催できたことは、学生にとっても採用する側である社会人にとってもよい経験となりました。

また、参加者の中には女子学生の姿も見られ、産休・育休の制度や実際の働き方などの質問が多く出されました。今後、建コン業界で一緒に働ける日を楽しみにしています。

■「建コン中部支部役員との意見交換会」への参加

建コン中部支部の役員との意見交換会に若手の会とともに参加しました。平成29年度に女性の会WGが発足してから初の試みでした。

役員の方に対して、これまでのWGの活動報告ができたこと、意見交換ができたことにより、相互理解の第1歩を踏み出したように思います。今後も定期的に実施されることなので、女性の会WGへの理解や支援が一層進むことを期待します。

- 日 時: 令和3年1月6日(水)15:00~17:00
- 場 所: ANAクラウンプラザホテル 5F ローズルーム
- 参加者: 役員8名、若手の会3名、女性の会4名、事務局2名
- プログラム: ①意見交換会の主旨説明
②意見交換会の実施要項
③若手の会WG、女性の会WGの活動報告
④支部活動のトピックス説明
⑤来年度以降の活動に向けた提案・意見交換



意見交換会の様子

令和3年度上半期の主な活動予定

今年度より第3期の活動がスタートしました。第2期より引き続き活動してくださるメンバー、今期より交替、または新たに加わったメンバーもいます。

現在も続く新型コロナウイルス感染症の影響もあるため、なかなか円滑な活動はできませんが、WebでWGを実施する等、昨年度までの経験を生かし、次のようなことに取り組んでいきたいと考えております。

■女性が長く働き続けることができる環境をつくるための勉強会の実施

SDGsでは「ジェンダー平等を実現しよう」という目標が立てられ、各企業でも少しずつ取り組みが進んできています。働きたい気持ちがあるのに退職せざるを得ない状況にならないようにするにはどうすればよいか、建コン業界各社・他業界のSDGsへの取り組み状況等を学び、情報を共有することで建コン業界全体が「長く働き続けることができる環境」になっていけるよう勉強会を行いたいと思います。

■第2回女性技術交流会の開催に向けて

「第2回女性技術者交流会」を企画し、中部圏の建コン業界で働く女性技術者同士が各企業の枠を超えて交流できる会を設けたいと思います。

今年度は改選期のため、交流会は、来年度に開催するとし、まずは『テーマ』を決めて準備を進めたいと思います。また、準備段階として、他団体の女性の会とも連携・交流できればと思っています。

今年度も女性の会WGを無理なく楽しい活動にしていきたいと思います。

■イブニングサロンへの参加

1. 参加目的

愛知県が主催する学生への業界PRの場である「イブニングサロン」に参加して、就職活動を行う学生の方に「建コン」の“魅力”を伝えて“未来の建コン技術者”を増やすことが目的です。

2. 参加概要

愛知総合工科高等学校にて開催されたため、若手の会WGメンバーより1名が参加させていただきました。(2020/10/20開催)

3. 感想

例年、参加させていただいており、建コンの魅力を伝えていますが、なかなか浸透していない印象を受けました。ジョブカフェと併せて情報発信の場または方法を検討する必要があると考えています。

令和3年度上半期の主な活動予定

昨年度までの状況等を踏まえて、以下の活動を予定しています。

①JOBカフェ

昨年度開催後に実施した参加者へのアンケートでは、好評であったため今年度も実施する予定をしています。

上半期⇒開催内容・規模等を検討・決定

下半期⇒準備・開催予定

※定期的(年1回程度)に実施する予定です。

②イブニングサロン

愛知県からの要望に応じて参加します。

③本部イベント

「業界展望を考える若手技術者の会」(本部若手の会)が主催するWILLSUMMITを含めて本部若手の会との連携を図ります。

④離職率ダウンに関する活動

昨年度までの活動を振り返ると、ジョブカフェ等の入職者アップに関する活動は比較的实施してきました。

しかし、離職率ダウンに関する活動がなかったため、勉強会の開催等により離職率ダウンを目指した活動を行いたいです。

⑤テレワーク時の業務管理を始めとする悩みや課題・解決案等を共有できる勉強会の開催を行い、コロナ渦における業務のやり方を改善できればと思っています。

女性の会WG

リーダー 所 三枝
(総務部会所管)

女性の会WGの令和2年度の下半期の活動内容、令和3年度の活動予定をご報告させていただきます。

令和2年度下半期の主な活動報告

■「JOB Cafe」への参加

中部支部若手の会主催によるJOB Caféに女性の会からも参加しました。

◎JOB Cafeとは

普段の生活の中で、建設コンサルタントの仕事や活躍の場を目にする機会はあまり多くなく、学生が土木業界への就職を志す上で不安や疑問を抱えることも少なくありません。そこで、説明会とは違い社会人も学生も私服で集まり、軽食を楽しみながら気軽に話せるイベントです。

◎JOB Cafeの概要

- 日 時: 令和2年11月21日(土)
- 場 所: 名古屋市内 某Cafe
- 参加者: 23名(うち学生10名)
- プログラム: ①建設コンサルタントとは?
②建コン若手のある一日
③建コンに就職を決めた理由
／入社前後のギャップとやりがい
④フリートーク・記念撮影



JOB Cafe参加メンバー

◎開催結果

当日は、参加者の検温や、十分な換気を行うなど、万全な新型コロナウイルス感染予防対策のもと開催しました。コロナ禍での就職活動は、学生も企業も戸惑いの多いことと思います。コロナ禍においてもこのようなイベントを開催できたことは、学生にとっても採用する側である社会人にとってもよい経験となりました。

また、参加者の中には女子学生の姿も見られ、産休・育休の制度や実際の働き方などの質問が多く出されました。今後、建コン業界で一緒に働ける日を楽しみにしています。

■「建コン中部支部役員との意見交換会」への参加

建コン中部支部の役員との意見交換会に若手の会とともに参加しました。平成29年度に女性の会WGが発足してから初の試みでした。

役員の方に対して、これまでのWGの活動報告ができたこと、意見交換ができたことにより、相互理解の第1歩を踏み出したように思います。今後も定期的に実施されることなので、女性の会WGへの理解や支援が一層進むことを期待します。

- 日 時: 令和3年1月6日(水) 15:00～17:00
- 場 所: ANAクラウンプラザホテル 5F ローズルーム
- 参加者: 役員8名、若手の会3名、女性の会4名、事務局2名
- プログラム: ①意見交換会の主旨説明
②意見交換会の実施要項
③若手の会WG、女性の会WGの活動報告
④支部活動のトピックス説明
⑤来年度以降の活動に向けた提案・意見交換



意見交換会の様子

令和3年度上半期の主な活動予定

今年度より第3期の活動がスタートしました。第2期より引き続き活動してくださるメンバー、今期より交替、または新たに加わったメンバーもいます。

現在も続く新型コロナウイルス感染症の影響もあるため、なかなか円滑な活動はできませんが、WebでWGを実施する等、昨年度までの経験を生かし、次のようなことに取り組んでいきたいと考えております。

■女性が長く働き続けることができる環境をつくるための勉強会の実施

SDGsでは「ジェンダー平等を実現しよう」という目標が立てられ、各企業でも少しずつ取り組みが進んできています。働きたい気持ちがあるのに退職せざるを得ない状況にならないようにするにはどうすればよいか、建コン業界各社・他業界のSDGsへの取り組み状況等を学び、情報を共有することで建コン業界全体が「長く働き続けることができる環境」になっていけるよう勉強会を行いたいと思います。

■第2回女性技術交流会の開催に向けて

「第2回女性技術者交流会」を企画し、中部圏の建コン業界で働く女性技術者同士が各企業の枠を超えて交流できる会を設けたいと思います。

今年度は改選期のため、交流会は、来年度に開催するとし、まずは『テーマ』を決めて準備を進めたいと思います。また、準備段階として、他団体の女性の会とも連携・交流できればと思っています。

今年度も女性の会WGを無理なく楽しい活動にしていきたいと思います。

会 社 名	所 在 地	電 話 番 号	URL
(株)創信	岐阜県本巣市石神707-2	058-320-0325	https://www.sousinn.co.jp/
ダイシンコンサルタント(株)	岐阜県中津川市中津川3168-1	0573-65-2468	http://www.daishin-con.biz/
大同コンサルタンツ(株)	岐阜県岐阜市中鷺2-11	058-273-7141	http://daidocc.com/
大日コンサルタント(株)	岐阜県岐阜市藪田南3-1-21	058-271-2501	http://www.dainichi-consul.com/
大日本コンサルタント(株)	名古屋市西区名駅2-27-8(名古屋プライムセントラルタワー18F)	052-581-8993	https://www.ne-con.co.jp/
(株)ダイヤコンサルタント	名古屋市熱田区金山町1-6-12	052-681-6711	http://www.diaconsult.co.jp/
(株)拓工	名古屋市熱田区桜田町15-22	052-883-2711	http://www.c-takko.co.jp/
玉野総合コンサルタント(株)	名古屋市東区東桜2-17-14(新栄町ビル)	052-979-9111	http://www.tamano.co.jp/
中央開発(株)	名古屋市中村区牛田通2-16	052-481-6261	https://www.ckcnet.co.jp/
中央コンサルタンツ(株)	名古屋市西区那古野2-11-23	052-551-2541	https://www.chuoh-c.co.jp/
中央復建コンサルタンツ(株)	名古屋市中区錦2-3-4(名古屋錦フロントタワー8F)	052-220-2920	https://www.cfk.co.jp/
(株)中部テック	名古屋市名東区社台3-48	052-771-1251	http://www.chubu-tech.co.jp/
中部復建(株)	名古屋市昭和区福江1-1805	052-882-6611	http://www.chubu-fk.co.jp/
(株)長大	名古屋市中村区名駅南1-18-24(マイビルディング4F)	052-586-0700	https://www.chodai.co.jp/
(株)千代田コンサルタント	名古屋市中区丸の内3-14-32(丸の内三丁目ビル6F)	052-221-1401	https://www.chiyoda-ec.co.jp/
(株)テイコク	岐阜県岐阜市橋本町2-8(濃飛ニッセイビル内)	058-214-6667	http://www.teikoku-eng.co.jp/
(株)東京建設コンサルタント	名古屋市中区錦2-5-5(八木兵伝馬町ビル)	052-222-2771	https://www.tokencon.co.jp/
(株)東日	静岡県沼津市大岡2240-16	055-921-8053	http://www.tohnichi-net.co.jp/
(株)トーニチコンサルタント	名古屋市中区栄4-6-15(フォーティンヒルズセンタービル)	052-262-4535	http://www.tonichi-c.co.jp/
東洋技研コンサルタント(株)	名古屋市中区錦1-6-10(スズワンビル6F)	052-221-6979	https://www.toyogiken-ccci.co.jp/
中日本建設コンサルタント(株)	名古屋市中区錦1-8-6(ONEST名古屋錦スクエア)	052-232-6032	https://www.nakanihon.co.jp/
(株)浪速技研コンサルタント	愛知県豊田市桜町2-54(松村ビル2B)	0565-41-4655	http://www.naniwa-giken.co.jp/
南海カツマ(株)	三重県津市上浜町5-64-6	059-226-4854	http://www.nankai-katsuma.co.jp/
(株)日建設シビル	名古屋市中区栄4-15-32(日建住生ビル)	052-261-0815	http://www.nikken-civil.co.jp/
(株)日本インシーク	名古屋市中区丸の内3-21-25(清風ビル6F)	052-951-3590	https://www.insiek.co.jp/
日本工営(株)	名古屋市中区葵1-20-22(セントラル名古屋葵ビル9F、10F)	052-559-7300	https://www.n-koei.co.jp/
日本交通技術(株)	名古屋市中村区椿町14-13(ウエストポイント1413)	052-451-9111	https://www.jtc-con.co.jp/
日本振興(株)	名古屋市中村区名駅5-27-13(名駅錦橋ビル5F)	052-562-1191	https://www.nihon-shinko.com/
(株)日本水工コンサルタント	名古屋市中村区竹橋町5-10(オイセタウンビル7F)	052-451-2391	http://www.nissuiko.co.jp/
(株)ニュージェック	名古屋市中村区名駅5-27-13(名駅錦ビル4F)	052-541-8251	https://www.newjec.co.jp/
(株)パートナーズ	愛知県豊橋市三ノ輪町字本興寺41-1(CREST.1第1丸中ビル4F)	0532-39-9900	https://partners-tokai.com
(株)ハイウェイ・エンジニアリング	名古屋市中区錦1-20-10(HR.NET伏見ビル6F)	052-232-1891	http://www.hw-eng.co.jp/
パシフィックコンサルタンツ(株)	名古屋市中区名駅1-1-17(名鉄ダイヤメイテツビル)	052-589-3111	https://www.pacific.co.jp/
(株)パスコ	名古屋市中区錦2-2-13(名古屋センタービル10F)	052-239-5140	https://www.pasco.co.jp/
藤コンサル(株)	名古屋市中村区名駅3-22-8	052-433-1261	http://www.fuji-con.co.jp/
不二総合コンサルタント(株)	浜松市北区初生町889-2	053-439-6112	http://fujisougou.co.jp/
(株)フジヤマ	浜松市中区元城町216-19	053-454-5892	https://www.con-fujiyama.com/
(株)復建エンジニアリング	名古屋市中区栄2-5-13(アイ・エスビル7F)	052-203-0651	https://www.fke.co.jp/
(株)復建技術コンサルタント	名古屋市中区錦1-7-32(名古屋Sビル7F)	052-222-6040	https://www.fgc.jp/
復建調査設計(株)	名古屋市東区葵2-12-1	052-931-5222	https://www.fukken.co.jp/
(株)間瀬コンサルタント	名古屋市中村区名駅5-30-4(名駅KDビル4F)	052-414-6020	http://www.masecon.co.jp/
丸栄調査設計(株)	三重県松阪市船江町1528-2	0598-51-3786	
三井共同建設コンサルタント(株)	名古屋市中区丸の内3-20-3(BPRプレイス久屋大通7F)	052-953-1060	https://www.mccnet.co.jp/
明治コンサルタント(株)	名古屋市中区大須4-10-32(上前津KDビル)	052-249-3720	https://www.meicon.co.jp/
(株)メイホーエンジニアリング	岐阜県岐阜市吹上町6-21	058-253-8811	http://www.meihoeng.co.jp/
(株)名邦テクノ	名古屋市中区大磯通6-9-2	052-823-7111	https://www.meiho-techno.co.jp/
八千代エンジニアリング(株)	名古屋市中区新栄町2-9(スカイオアシス栄9F)	052-950-2150	https://www.yachiyo-eng.co.jp/
(株)ユニオン	岐阜県岐阜市西河渡2-57	058-253-3192	http://www.theunion.co.jp/
(株)若鈴	三重県津市広明町345-1(若鈴ビル)	059-226-4101	http://www.wakasuzu.co.jp/
若鈴コンサルタンツ(株)	名古屋市中区中小田井5-450	052-501-1361	http://wakasuzuc.jp/

事務局だより



●ながびくコロナ禍

振り返ると、2020年1月、ダイヤモンドプリンセス号の乗客からコロナ感染が確認されたことをきっかけに、日本国内での感染が広まり、3月、新型コロナウイルス対策特別措置法が成立、4月には東京都など7都道府県に1回目の緊急事態宣言が発令されました。

一方、支部活動はというと、影響により令和2年3月の役員会はできなくなり、4月の定時総会も議決権方式による実施が余儀なくされました。5月末に緊急事態宣言は解除されたものの、令和2年度の支部活動、とりわけ前半の活動は中止が相次ぎました。後半はWeb方式で盛況に実施されましたが、令和3年1月に再度2回目の緊急事態宣言が発出される状況となり、賀詞交歓会は中止となりましたが、令和3年度定時総会は、例年よりも少ない参加ではありましたが、なんとか、対面(初めての試みとして画像配信を導入)で実施することができました。

●WithコロナからAfterコロナへ

こうして、令和3年度がスタートし中部支部も新たな役員、委員を迎え新体制となりました。一方、コロナ感染拡大はイギリス株などの変異ウイルスが拡大し、愛知県も含めて3回目の緊急事態宣言が発令されるなど先の見通せない状況が続いていますが、支部活動はプランBを用意しながらではありますが、各委員会の活動も活発になってきています。

昨年度は中止となった本部のRCCM資格試験が今年度はコンピューター試験(今後3年間は継続)となり、各種セミナーもオンライン化が予定されています。当支部でもWeb方式による総会やセミナー開催となってきています。

早いもので、コロナ禍の中中部支部の活動も足掛け3年になりました。これまでの経験から、最初は「何もできない」から「どうしたらできるか」と意識が変わり、支部活動のあり方もずいぶん様変わりし、今や、Webを活用した総会やセミナーがあたり前となってきました。

まさにコロナ禍が契機となりDXの時代へと急速に進んでいると言えます。

そもそも、DX(デジタルトランスフォーメーション)とは、2004年にスウェーデンの教授が提唱した概念で、「進化し続けるテクノロジーが人々の生活を豊にしていく」というものだそうです。

アナログ世代にとっては戸惑うことも多くありますが、事務局もこのことを信じて、取り組んでいきますので、今後ともよろしく願いいたします。

●建コン協災害時対応演習

9月1日に建コン協本部と全国の支部を結んで災害時対応演習が行われます。水害や地震災害などの自然災害は、コロナ禍でも容赦なく襲ってきます。特に今年度は中部支部が現地対策本部の役回りとなって実施されます。いざ本番となったとき、迅速な支援が第一に求められますが、支援に従事する人や支援先でのコロナ対策も重要な要素となってきます。

演習内容としては、災害の発生状況やリエゾン活動により得られた情報の伝達が主なものとなりますが、それぞれの立場で、色々なことを頭の中で想定し、有意義な訓練としていく必要があります。会員の皆様のご協力をお願いします。

【編集後記】

はじめに、今もなお新型コロナウイルスの猛威にはこれといった決定策がなく、ワクチン接種の早急な拡散とともに感染者の終息を只々祈るばかりであります。

『図夢in 中部』も今回で、第47号となりました。
疫病が猛威を振るうこのような状況下ではありますが、近年では洪水による災害も頻発しております。

そこで本号の特集は、国土交通省 中部地方整備局 庄内川河川事務所様にご協力頂き、防災の観点から「東海豪雨から20年」と題して特集記事をいただきました。豪雨の経験も踏まえ、今後の治水対策への取り組みなどが挙げられております。多くの図・表、そして写真を織り交ぜ、解りやすく紹介されております。

我々建設コンサルタントもこのような調査・計画に数多く参画させて頂いております。このような治水対策をはじめ、我々建設コンサルタントはその責任と期待を大いに受けており、誇りを持つと同時に嬉しく思っております。

末尾に、発刊に際しましてご執筆・ご協力頂きました皆様に、編集員一同より心から御礼申し上げます。

(T. K)

【編集】対外活動部会編集委員会

部 会 長	村 松 千 明	セントラルコンサルタント(株)	委 員	岩 部 健 治	不二総合コンサルタント(株)
副 部 会 長	津 田 光 則	八千代エンジニアリング(株)	委 員	渡 邊 周 作	中央コンサルタンツ(株)
編集委員長	伊 藤 博 之	(株) ニュージェック	委 員	小 嶋 貴 之	(株) テイコク
編集副委員長	坂 本 憲 二	中央復建コンサルタンツ(株)	委 員	古 川 真 人	(株) アイエスシイ
委 員	瀧 高 雄	(株) 葵エンジニアリング	委 員	大 日 川 靖	玉野総合コンサルタント(株)
委 員	太 刀 掛 泰 清	セントラルコンサルタント(株)	委 員	山 下 達	中日本建設コンサルタント(株)
委 員	小 林 岳 彦	日 本 交 通 技 術 (株)			

読者の皆様の作品・ご意見をお待ちしています。

◇投稿作品募集！

次号に掲載する投稿を読者の皆様から募集しています。

投稿内容：ジャンル・テーマは自由です。
(採用者には薄謝進呈します)

投稿方法：メール・FAX・郵送にてご応募ください。

◇読者アンケート

読者アンケートにご協力お願いします。あなたのご意見が「図夢in中部」を作ります。特に、本誌や建設コンサルタント支部活動への要望や提案など、个性的な意見を沢山お待ちしております。
一般社団法人建設コンサルタンツ協会中部支部ホームページの「読者アンケート」までどしどしお寄せください。

●すべての応募先、お問合せは…

(一社)建設コンサルタンツ協会 中部支部 編集委員会

名古屋市中区丸の内一丁目4番12号(アレックスビル3F) TEL.052-265-5738 FAX.052-265-5739

ホームページ <http://www.ccainet.org/>

メール info@ccainet.org



一般社団法人建設コンサルタンツ協会 倫理綱領

会員は、社会のニーズに応じて、技術に関する知識と経験を駆使し、社会の健全な発展に寄与する建設コンサルタントの使命と職責を自覚し、信義に基づき誠実に職務の遂行に努め、職業上の地位及び社会的評価の向上を図らなければならない。そのため次の事項を遵守するものとする。

1. 品位の保持

会員は、常に建設コンサルタントとしての品位の保持に努めるとともに、会員相互の名誉を重んじなければならない。

2. 専門技術の権威保持

会員は、常に幅広い知識の吸収と技術の向上に努め、依頼者の良き技術的パートナーとして、技術的確信のもとに業務にあたらなければならない。

3. 中立・独立性の堅持

会員は、建設コンサルタントを専業とし、建設業者又は建設業に関係ある製造業者等と、建設コンサルタントとしての中立・独立性を害するような利害関係をもってはならない。また、依頼者の支払う報酬以外いかなる利益をも受けてはならない。

4. 秘密の保持

会員は、依頼者の利益を擁護する立場を堅持するため、業務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

5. 公正かつ自由な競争の維持

会員は、公正かつ自由な競争の維持に努めなければならない。

平成 7 年 5 月 16 日総会承認